

皇學館大学
ボランティアルーム

平成26年度 活動報告書



目 次

担当教員あいさつ	1
代表あいさつ	2
1. ボランティアコーディネート活動報告	
・平成 26 年度ボランティアコーディネート活動報告	5
2. ボランティアルーム企画活動報告	
・コミュニケーショントレーニング「學走中」 活動報告	13
・災害報告会 活動報告	16
・リアル脱出ゲーム「VOLU」 活動報告	19
・めえめえストーリー 活動報告	22
・サマースクール 活動報告	26
・ボランティア通信 活動報告	30
・年間反省会 活動報告	34
・第 53 回倉陵祭模擬店 活動報告	38
・ペットボトルキャップ&プルタブ回収 活動報告	42
3. アンケート報告	
・平成 26 年全学年対象アンケート報告	47
4. 資料	
・平成 26 年度 スケジュール	59
・平成 26 年度 募集一覧	60
・平成 26 年度 ルームスタッフ一覧	62

平成 26 年度のふりかえり

皇學館大学ボランティアルーム担当教員

教育学部 叶 俊文

平成 26 年度の皇學館大学ボランティアルームは、4 年生不在の状態からスタートした。加えて、これまでにボランティアルームのベースとなった、社会福祉学部の福祉マインドの流れが次第に薄れていくという状態になろうとしていたように思う。

3 年生は様々な面で先輩でありながらも、指導者的な立場に立って下級生を見てきてくれた。その結果として、多くの企画が実施されている。東日本大震災の状況を伝えようとした災害報告会、学生を何とかボランティアの方向に導きたちいという願いの詰まった學走中やリアル脱出ゲームなどが企画されて、実施に至った。しかし、参加してくれた学生はボランティアルームスタッフが思ったよりも少なかったと思う。その理由を告知の遅さであるとか、準備の遅さに起因しているところも見受けられる。だが、本当に告知が早く、準備をしっかりしていたら参加者は増えたのだろうか。

企画を実施するというのは、傍から見ると何かを行っているように見える。ボランティアルームのスタッフとして何かをしているように見える。しかし、これはボランティアルームの「本質」であるのかどうか。ボランティアルームとは「何をすべき場所」なのか。企画の中心になった 2 年生はそんなことを考え始めてくれているように感じる。こうした考えこそが皇學館大学ボランティアルームのあるべき姿を導き出してくれるように感じている。これは 3 年生も通ってきた道なのである。

「どのようなボランティアルームにするのか」の解。そのヒントになることが年度の反省会の中に見えたように思う。反省会には皇學館大学ボランティアルームを支えてくださった三重県社会福祉協議会の方、伊勢市社会福祉協議会の方など多くの方が参加してくださり、学生スタッフのこの一年の活動に対して多くの意見を与えてくださった。ボランティア情報を如何に発するべきか、登録している学生たちに何を伝えるべきか、その手段は何かなど貴重な意見を頂いた。意見を集約していけば、きっと「どのようなボランティアルームにするのか」の解にたどり着いていくような気がする。もちろん先は長い。

「皇學館大学ボランティアルームの本質」への解。そのヒントをくれる会が年度末に企画された。皇學館大学社会福祉学部で発足して、伊勢学舎に引き継ぐまでに脈々と支えてくれた旧学生スタッフの方々が交流会を開いてくれたのである。学生は戸惑ったことと思う。何を話せばいいのかと考えたと思う。その中で OB の方が語る当時の思いや考えていたことを肌で感じる事が大切になる。わかる必要はない。肌で感じて、感じた熱を自分の中に蓄えてくれればいいのである。そして、本質に近づいてくれればいい。これも先は長い。

スタートラインはまだまだ見えないけれども、そこに向っているという確信を持ちながら進んでいきましょう。

行動と挑戦から新しい変化

皇學館大學ボランティアルーム 学生スタッフ

皇學館大学 3年 黒田 ゆかり

今年度のボランティアルームは、**Action**～一步を踏み出そう～を目標に活動をしてきました。この目標には、学生の視点と学生スタッフの視点の2つの意味が込められています。1つ目は、ボランティアに参加したことがない学生が、一步を踏み出し、ボランティア参加を促進することです。2つ目は、ボランティアルームの学生スタッフ自身も一步を踏み出し、様々なボランティアに参加することです。そして、自分の目を見て、人と出会い、体験をしてボランティアの良さを実感した上で、学生が安心してボランティアに参加できるような、コーディネートの向上を目指すということです。このような2つの視点から目標を掲げ、今年度がスタートしました。私たちスタッフ自身も、ボランティアの経験と知識を積み、スタッフ内でもボランティア体験内容を共有した1年になったと考えます。

そんな中、文学部の学生が新生スタッフとして入ってくれました。以前のボランティアルームは、教育学部と現代日本社会学部の学生で構成されていたので、文学部学生がスタッフになることは、これからのボランティアルームにとって、新しい変化になり、文学部生のボランティア参加促進に繋がるのではないかと考えます。

ボランティアルームの活動を振り返ってみると、昨年度は、企画を増やしすぎた結果、コーディネートが疎かになってしまったという反省がありました。今年度は、ボランティアコーディネート業務の重要性を再確認し、スタッフの意識づけを中心に行いました。また、今年度新しく挑戦をした「学内小学生ボランティア」では、大学に地域の小学生を招き、大学生と小学生が工作やレクリエーションをするという、学生が学内で参加できるボランティア企画を開催しました。その結果、忙しい学生でも「身近でボランティアがしたい。」というニーズに応えられたのではないかと考えます。そして、伊勢学舎では初の試みで「ボランティア通信」というチラシを発行しました。毎月更新をしてボランティア体験の声やおすすめボランティアを載せるという取り組みを行いました。

この一年は、いつも、私たちのことを、温かく見守ってくださった先輩方がご卒業され、3年生が最上級生になりました。ミーティングでは、意見がぶつかり合い、悩んだ時期もありました。その時に、ボランティアルームスタッフのOB会が開かれ、歴代の先輩方と交流をすることで、ボランティアルームのあり方や福祉の心を受け継いでいかなければならないという強い使命感を持つことができたのが大きな実りとなりました。

最後になりましたが、ボランティアルーム開設当初からご支援・ご指導いただいている教職員の皆様、そしてボランティア依頼やボランティア学生の受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様には心より感謝申し上げます。そして、どうか今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いします。

1. ボランティアコーディネーター状況報告

平成 26 年度ボランティアコーディネート 活動報告

1. はじめに

皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。そこで、ボランティアコーディネートについて今年度の活動を報告する。

2. ボランティアコーディネート業務

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、学生が希望するボランティアと地域から依頼されるボランティアの調整やボランティアの受付を行い、それを学生に情報提供して地域と学生を繋ぐことである。

ボランティアコーディネートを学生スタッフが行うことで、学生のボランティアへの参加も促しやすくなったのではないかと思う。学生スタッフがボランティアコーディネートを行うにあたって、気をつけないといけないことがある。それは、地域と学生の関係が対等であり、互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にボランティアコーディネートを行うために、連絡を取り合うことの重要性を学生スタッフ一人ひとりが、理解しておくことが大事である。

3. コーディネート状況

今年度のボランティア依頼件数は、通常募集、随時募集を合わせ、全 93 件であった。そしてボランティア参加学生数は 123 人であった。

依頼件数 93 件は、昨年度の 85 件より 12 件増加した。しかし、参加学生数は昨年度の 178 人より 55 人減少している。この傾向の要因として挙げられるのは、社会福祉士事前実習指導を受けている学生の夏期休暇中のボランティア参加数減少が考えられる。現代日本社会学部の学生の参加数は、昨年度で 85 名だったのに対して、今年度は 27 名であった。

来年度以降は春学期中に、夏期休暇期間に開催されるボランティア情報を集約したパンフレットを作成する等して、事前実習指導を受けている学生に積極的に呼びかけ、参加学生数を多く獲得していきたい。

表 1 ボランティア総件数と参加学生数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ボランティア総件数	149件	107件	85件	93件
参加学生数	136人	179人	178人	123人

※平成 26 年度以外は学生スタッフの参加数を含む

ボランティアルームでは 3 つのジャンルに分けて情報を発信している。

- ① 福祉系：高齢者施設、障がい者(児)、福祉競技スタッフなど
- ② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
- ③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど

3ジャンル各ボランティア依頼件数は以下の通りである。昨年度までは、一つの情報に複数のジャンルが重なることもあったが、今年度はジャンルを重ねずに統計を行った。そして、三重県警主導の「若樫サポーターボランティア」及び、緊急で募集をかけたボランティアに関しては、「その他」に分類している。

表2 ジャンル別のボランティア件数

	福祉	地域	子ども	その他	合計
通常募集	18	33	16	6	73
随時募集	10	1	9	0	20
合計	28	34	25	6	93

表2からも読み取れるように、地域援助系のボランティア依頼件数が一番多い上に、昨年度より5件増加している。その要因として伊勢市周辺のボランティアが年間を通して定期的で開催されているからだと考えられる。

次に、通常募集及び随時募集を合わせたジャンル別における参加学生数及び、ボランティアコーディネート件数は以下の通りである。

表3 ジャンル別の参加学生数

通常募集・随時募集の参加学生数				
福祉	地域	子ども	その他	合計
31	26	47	19	123

通常募集及び随時募集を合わせたジャンル別における参加学生数

表4 ボランティアコーディネート件数

	ボランティア総件数	コーディネート件数
福祉	28	15
地域	34	11
子ども	25	13
その他	6	1
合計	93	40

表3からは子どもサポート系ボランティアへの参加学生数は、例年通り一番多い傾向にあることが伺える。これは本学には教育学部があること、学部を問わず多くの学生が教師

志望であることが要因として考えられる。

次に表 4 において、昨年度の地域援助系ボランティアのコーディネート件数が 5 件に対して、今年度は 11 件もあった。これは、昨年度の報告書で挙げられた課題「学生を地域での活動に導いていくこと」を達成できたのではないだろうか。来年度以降も地域で活動できるボランティア情報を学生に発信していきたい。

近年、教育現場では様々な問題が発生しており、教師には「福祉の視点」が必要とされてきている。そして平成 27 年度には政府の方針により、各都道府県にスクールソーシャルワーカーの配置が決定された。近年の教育現場を巡る動向を見ている限り、今後の教育現場において「福祉の視点」は益々重要視され、必要不可欠な能力といえるだろう。この流れに乗り、ボランティアルームとしては教師を目指す学生に対して「子ども関連のボランティアだけが全てではない」ということ、学生の可能性を広げられるような情報提供やサポートをしていく必要がある。この活動への取り組みが、子どもサポート以外のボランティアへの参加数の上昇へのきっかけになると確信している。

4. メール登録学生についての詳細

次の表 5 はメール登録学生からみるコーディネートの分析をする。今年度の登録学生は合計 404 名にのぼり、昨年度の 233 名よりおよそ 2 倍に増加した。以下の表は登録学生の学科別に表したものである。

表 5 学科別の登録学生数

	神道	国文	国史	コミュ	教育	現日
平成25年度	8	26	17	5	164	13
平成26年度	14	44	41	26	237	42

学科別でみると、教育学科の学生が一番多いことがわかる。教育学科の学生は非常にボランティアへの参加率が高いが、子どもサポート系ボランティアに偏り気味な傾向は毎年変わらない。先述のとおり、子どもサポート以外のボランティアへ興味を抱いてもらえるような取り組みを行っていく必要がある。また、昨年度の報告書であげた課題「文学部の登録学生が少ない」ということに対しては、昨年度より多くの文学部の学生が登録してくれた。ボランティアルームは本学 2 号館にあるため、文学部の学生にとって身近な存在、利用しやすい場所となってきたのだろう。

次に、登録学生を学年別に表したものである。

表 6 学年別の登録学生数

	1年	2年	3年	4年
平成25年度	137	52	34	10
平成26年度	204	81	105	14

メール登録学生確保の主な手段に、毎年記念講堂で新年度はじめの各学年への履修指導の場が与えられている。その時にボランティアルームの紹介を兼ねてメール登録手続きの説明をしているため、一気に多くの登録学生を確保する機会となっている。新1年生は大学生活への新たなスタートへの期待感とチャレンジ精神によって多くの学生が登録していく。しかしながら、例年学年が上がるにつれて登録学生が減少していく傾向にある。この傾向を打破していくために、メール登録学生に向けたアンケート調査を行い、対策を講じる必要がある。

一方で、今年度は新3年生の登録数が、昨年度2年生だったのに比べて約2倍に増えている。なぜこの現象が起きたのか。考えられるのは、新3年生には昨年度から継続的にボランティア活動に参加している学生が多いことである。また、継続的に活動している学生と友人関係にある学生が「友達に誘われて参加しにきた」と、初めてボランティアルームを利用してくださった。このことから、ボランティア参加学生によるリピーターの存在が、今年度の新3年生登録数の増加に影響を及ぼしたのではないかと考えられる。

同じ学生によるボランティアの感想が、他の学生に影響を与えるのではないか。それをヒントに、今後はボランティアに参加した学生の体験報告会を開催したり、感想を学生・教職員の目に留まるように掲示する、体験談集のようなパンフレット作成にも可能な限り新たに取り組んでみたい。

この取り組みによって、参加学生のインプット・アウトプットの場を提供することにより、「ボランティアに参加した意義」を学習できるようにしていきたい。

5. まとめ

これまでの報告を踏まえて、今年度の二つの課題と、それぞれの課題に対して次年度以降にやるべきことについて言及していく。

一つ目の課題は「コーディネート件数」についてである。今年度はボランティア依頼件数93件に対してコーディネート件数は40件という結果となった。昨年度の38件より2件増加しているものの、比率は今年度と大差はないように感じる。しかしこの結果と、表1から伺えることは、ボランティア件数は年々減少傾向にあるが、ボランティアコーディネート率はそれほど差がない。このことから、ボランティア依頼件数が少ないから参加者が少ないのではなく、コーディネートのやり方次第でボランティアに参加する学生が増えるのではないかと考える。ボランティアをいかに学生に参加してもらえるかというコーディネートスキル、イベント企画力を磨く必要がある。

そこで私が提案する対策として「ボランティアルームに留まらない」ことである。私た

ち学生スタッフは、今までボランティアルームの中で学生が入室してくれるのを待ち続けながら仕事をするという受け身の姿勢であった。しかしこのままの姿勢では、学生との信頼関係が築いていけない。受け身のままではなく、掲示板の前で足を止めている学生達に私たちスタッフが積極的に話しかけていくことが、今後必要になってくる。

他に掲示板での声掛けだけでなく、例えばかつて名張学舎で行っていた「出張学生支援センター」を実際に伊勢学舎で行うことを提案する。例えば、定期的に6号館掲示板付近や倉陵会館1階、2号館ロビーなどで「出張」をし、学生へボランティア参加の声掛けやボランティア紹介をするのも、コーディネート件数上昇への手段の一つであると考える。

次に二つ目の課題は「メール登録学生数とコーディネート件数及び参加学生数が比例しない」ことである。今年度のメール登録学生は合計404名にのぼり、昨年度の233名よりおよそ2倍に増加したことは、数字の面からすると良い結果であったと思う。しかし今年度のコーディネート件数やボランティア活動の参加学生数の結果を踏まえると、目標であった「ボランティア参加学生数200名」には達していないのが現状である。この事実を重く受け止め、次年度以降はメール登録学生に対してアンケートなど、何らかの形式で後追い調査し、なぜメール登録学生数は多いのに、参加学生数は少ないのか、という原因を追究すると同時に今後のボランティア情報配信の手段や対策を講じる必要がある。

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科3年 久保 圭】

2. ボランティアルーム企画活動報告

春のコミュニケーショントレーニング

「學走中」 活動報告

1.目的

体を動かしながらコミュニケーション能力を育成し、学部・学年を問わない繋がりをつくることを目的に実施した。また、ボランティアルームの存在を学生に知ってもらい、ボランティアに参加するきっかけをつくることも兼ねて開催した。

2.活動内容

開催日時：平成 26 年 5 月 20 日（火）13:00~14:30

場所：皇學館大学学内

内容：人気 TV 番組「逃走中」の皇學館大学 ver.

告知はボランティア登録者に対するメール配信・ポスターの掲示・SNS での呼びかけ、食堂前と芝生広場での呼び込みを実施した。今回、新入生が入学して初めてのコミュニケーショントレーニングということで、特に新入生に対する呼びかけを精力的に実施した。

昨年度の秋のコミュニケーショントレーニングと同様に鬼ごっこの要領で実施した。逃走者は追跡者に追いかけられながら、そのなかで仲間とコミュニケーションをとりながらミッションをクリアしなければならない。ミッションの内容は昨年の反省から、よりコミュニケーションがとれるように次の 3 つを用意した。

- ① 事前配布した 4 色のガムテープのうちの自分に与えられた色別に 5 人集まって、活動区域内を巡回するスタッフに写真を撮ってもらう。
- ② ガムテープに書かれた番号の偶数・奇数、各 5 人ずつ集めて指定された場所にいるスタッフの持つ参加確認用紙に自分たちの名前を記入する。
- ③ 逃走者 2 人で協力して追跡者の動きを用意したロープで 5 分間止める。

ミッション①②は絶対参加とし③は自由参加とした。ミッション①②をクリアし追跡者から制限時間逃げ切れた人に景品を用意し、逃走者をたくさん捕獲した追跡者に対しても景品を用意するようにした。

3.活動報告

当日の参加者数は 20 名で晴天のなか開催することが出来た。今回のコミュニケーショントレーニングを実施した目的である「体を動かしながらコミュニケーション能力を育成し、学部・学年を問わない繋がりをつくる」を参加者に開会式で伝えることによって、意識して活動していたように見えた。例えば、ハンターから逃走者が逃げる際、逃走者同士で会話を交わし連携をとってハンターの行動を察知していた。あまり体を動かす機会のない大学生活でのこのような企画に参加者は疲労感を感じているように見えたが、一方で生き生きとした表情も見ることが出来た。怪我無く無事企画を終える頃には参加者同士気兼ねなく会話していたため、目的を果たせたように感じる。

4.参加者の感想

- ・とても疲れたが、知らない人ともコミュニケーションをとれてとても楽しかったです
- ・思ったより体力がなくてすぐ捕まってしまった
- ・違う学年の人と交流できて楽しかった
- ・疲れた
- ・移動範囲が狭かった
- ・ハンターもミッションもリアリティがあつてすごく楽しかった
- ・久々に運動できたのでよかった
- ・また参加したいと思った
- ・先輩との交流ができてよかった

5.反省

呼び込みを前回より勢力的に実施したにもかかわらず前回より参加者が減ってしまったことが残念であった。要因は今回一番参加して欲しかった新入生の授業スケジュールへの考慮が足らなかったことにあると反省している。また呼び込み方法に関しても SNS や食堂・芝生広場での宣伝、宣伝ポスター以外にもチラシによる宣伝等をすべきであった。ただ、芝生広場での宣伝には手ごたえを感じたので次回も実施すべきであると感じた。

前回の反省として危険区域についての考慮が不足していたことが挙げられたので、今回は事前にリハーサルを実施した。リハーサルを実施したことによって危険な場所をスタッフ自身が身をもって感じることができ、参加者に対する注意喚起を前回より行うことができたように感じる。その甲斐あつてか怪我人も出ず無事活動を終えることができた。一方で危険区域を制限し過ぎたことから、活動範囲が狭いと指摘を参加者から多数頂いたのもう少し考慮が必要だったと反省している。

6.活動風景



自己紹介



活動中



集合写真

文責：教育学部教育学科 2年 坂元 美咲

災害報告会 活動報告

1. 目的

東日本大震災から3年が経ち風化されつつある今、学生スタッフが見てきた東北の現状を伝えるとともに防災意識を高めることを目的として実施した。

2. 活動内容

日時：平成26年4月23日（水）13:00～14:30

場所：712教室

参加人数：19名

内容：まず、スタッフが作成したスライドをもとに発表を30分程度行い、感想を含め参加学生にアンケートを記入していただいた。発表内容は主に防災や東北の現状について現地の語り部・釘子さんのお話、陸前高田市、閉上市、新地町、そして東北へ行く前と行った後の気持ちというテーマに分け、5人のスタッフが印象に残った出来事を取り上げて1人5分程度のスライドを用意し発表した。その後、スライドの感想を4・5人のグループを作り、発表してもらいながら交流会を行った。

報告者：柘植美早、内藤悠、奥野紘規、松谷広志、山路騎平

3. 活動報告

告知は、ボランティア登録者に対するメール配信、ポスター、掲示板、SNSでの呼びかけ、食堂前・芝生広場での呼びかけを行った。春ということもあり、芝生広場で昼食をとる学生が多かったため芝生広場で呼びかけたところ、多くの学生が集まった。

私たちは、主に東北で見てきたことをまとめて発表した。その際「命の大切さ」が伝わるようにも心がけた。報告者同士で話し合い、なるべく当時のまま伝えようと時系列に沿った発表を行った。現地の語り部・釘子さんの発表では、釘子さんがおっしゃっていたことをそのまま話し、避難の事について伝えた。続く陸前高田市の発表では、復興が進んでいないことや命の大切さを伝えた。閉上市の発表では、準備しないことのおそろしさをテーマに逃げ遅れた中学生の話も交えて伝えた。そして、新地町の発表ではこれまでの発表とは違い、人々が復興に向けて活動しているという明るい面を伝えた。最後にまとめとして復興がまだまだ進んでいないこと、これから私たちにできること、東日本大震災を忘れてはいけないことを伝えた。

参加学生は真剣な顔で私たちのスライドを見ていた。中にはメモをとる学生もおり、私たちの想いを受け止めようとする学生の姿勢が伝わってきた。また、交流会は和気藹々とした雰囲気の中で行われ、一人ひとりの想いを共有する時間となった。良い雰囲気の中で報告会を終えることができた。災害報告会が終了した時、参加学生の表情は「何か行動したい」という思いでいっぱいになっていたように思われる。

<活動風景>



発表時の学生の様子



スライドを見ている学生の様子



交流会の様子



参加者集合写真

4. 参加者からの意見（アンケートより）

- ・復興への意識が薄れていたなので、再度意識する良いきっかけとなった。
- ・自分に関係ないと思うことがどれだけ怖いことなのか改めて感じた。
- ・東北のためになにかしようと思った。
- ・東北に一度足を運びたいと思った。
- ・まわりの人々に感謝していきたいと思った。
- ・現状について何も知らなかった。

- ・避難場所について様子をきちんと確認しようと思った。
- ・避難場所について家族と相談していきたくと思った。
- ・震災について考えなければならないと思った。
- ・自分が思っていた以上に復興は進んでいなかった。
- ・自分に出来ることを探していこうと思った。

5. まとめ・反省

この災害報告会は防災意識を高める事を目的として行われたが、スライド作成時に個人任せになってしまったのでスタッフの言いたいことがバラバラになってしまい、防災意識については一部の学生にしか伝わらなかったのが反省点である。また、発表時に一人ずつ発表したため災害報告会のメンバーとしてではなく個人の発表になってしまった。その結果、メリハリのない発表となってしまったので、クイズなどの時間もとりながら学生の参加型の内容を考えたほうがよかったと感じる。

参加者の中にも東北に対し、意識が薄れてしまっている方もいたので現状を伝えるという点ではうまく伝えることができたと思う。意見交流会の際に、自分の身の回りの防災だけでなく、将来にも生かして行くべきだという声が上がったので、東日本大震災を風化させないようにしようというスタッフの想いが伝わった点では成功に終わったと思う。

今回、発表を通して、人から聞いたことを話すより、自分の実体験を伝えることがどれだけ人に影響を及ぼすかということが分かった。自分たちの発言の仕方一つ一つで伝わり方が変わってしまうこともあるという点で自分たちも勉強になる災害報告会となった。そして、周りの人に東北についての思いを伝える機会を持つことができて本当に良かった。またこのような機会があれば、この反省を活かしもっと多くの人に伝わるような報告会にしたいと思う。

【文責：教育学部教育学科2年 柘植美早】

リアル脱出ゲーム「VOLU」 活動報告

1. 目的

テレビ番組にもなっている脱出ゲームを取り入れる事により、今までボランティアに興味の無かった学生がボランティアルームを訪れるきっかけ作りとボランティアへの参加促進を進めることを目的にして実施した。

2. 活動内容

日時：平成 26 年 11 月 28 日(金)10:40～12:10

担当者：出口真太郎、高奥 命

参加学生：8 人（3 年生 5 名、1 年生 3 名）

内容：学生の最終目標を教室からの脱出とし、謎解き問題 3 問とゲーム 2 種類を行ってもらった。それぞれ正解、クリアするごとにアルファベットのついたファラオ像（活動風景の 1 参照）を渡し全ての問題、ゲーム後、5 つのアルファベットを並べてできる単語を答えることができれば脱出成功とした。なお、5 文字の単語は今年度のボランティアルームの目標である「ACTON」とした。

謎解き問題はスタッフが実際に解きの難易度や制限時間を調整して、マッチ棒を使った問題や簡単な漢字を用いた問題などを 4 問用意し、3 問出題した。ゲームは実際にテレビ番組で行われているゲームと、スタッフが独自に考えたゲームを行ってもらった。独自のゲームはペットボトルのキャップを使用しているが、これはボランティアルームがペットボトルのキャップをワクチンに変える活動をしているためである。

3. 活動報告

今回行ったリアル脱出ゲーム「VOLU」は、ボランティアルーム初の試みであった。そのため、ポスター掲示・メール配信・Twitter・食堂での呼び込みで参加者を大々的に募った。

当日は 8 名の学生が参加した。テレビ番組や多くのイベントで脱出ゲームが開催されているため、当日を楽しみにしていた学生が多かった。8 名の学生を 3 つのグループに分け、それぞれの教室で脱出に挑戦してもらった。各教室に出題兼見張り役としてスタッフを配置した。問題に苦戦した学生のためにヒントを用意し、制限時間が迫ったらヒントを出すようにした

どのグループも熱心に取り組んでくれたことで、3 グループとも脱出が成功した。初対面の学生同士でも積極的に話し合い、とても楽しんで企画に参加してくれているようだった。

4. 活動風景



1. 参加者とファラオ像



2. 参加者の皆さん



3. 謎解き問題に取り組む参加者 1



4. 謎解き問題に取り組む参加者 2

5. 参加者からの意見

<感想>

- ・ とても楽しかった。
- ・ こんな企画があれば次回も参加したい。
- ・ 問題が難しかった。
- ・ テレビと同じゲームが出来て良かった。
- ・ ボランティアルームに行こうと思った。

<改善してほしい点>

- ・ 机の段差をなくして欲しい
- ・ 問題が簡単（または難し）すぎる

6. 反省点・まとめ

- ・ 当日になっての欠席が多かったため、予定していた時間通りにはいかなかった。企画の日程や集合場所が書かれたビラは参加予定者に渡したが、それだけではなく、企画前日にメールを送るなど、再度確認してもらえるようにすれば良かった。
- ・ スタッフによってヒントを出すタイミングが違ったり、独自のヒントを出したりとグループによって問題の難易度が変わったのも、時間通りにいかなかった原因である。ヒントは作ってあったものの、出すタイミングや他のヒントを出すかどうかについては決めていなかったもので、明確にスタッフに指示を出せば良かった。
- ・ 当初の企画の対象は1・2年生であったが、スタッフの履修の関係上1・2年生の半分近くが授業の入っている日に開催となったため、1・2年生の参加が3人に留まった。多くの学生が授業のない時間帯に設定するだけでなく、ある程度学部、学科を絞って日程を設定する必要があった。

今回の企画は参加者が8名という少人数ではあったものの、「ボランティアルームに行こうと思った。」と言う参加者の感想と実際にこの企画直後、ボランティアへの参加を申し込みに来てくれた参加者もいたことから、企画の目的であるボランティアルームを訪れるきっかけ作り、ボランティアへの参加促進に繋がったのではないかと思う。

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科2年 高奥 命】

めえめえストーリー 活動報告

1. 目的

ボランティア参加人数が減少してきている現在、大学で行えるボランティア促進企画として、ボランティアルームとしては初めての学内に子どもを呼び開催する企画を実施した。対象を近隣小学校二校の3・4・5年生にし、チラシの配布を各小学校をお願いした。ボランティアルームとして、学生がよりボランティアを身近に感じて気軽に参加できる場を提供し、学外でのボランティア参加への第一歩となることを目的とした企画である。また、一番参加人数の多い子ども分野のボランティアを開催し、学生の興味のあるボランティア企画を行うことによって参加促進を目指した。

2. 活動内容

日時：平成26年12月20日（土）

時間：13：00～16：00

《詳細》

13:00～13:30 説明

13:30～15:00 立体で羊作り

15:00～15:40 レクリエーション

15:40～16:00 記念撮影等・解散

場所：皇學館大学 712 教室 体育館サブアリーナ

対象：近隣小学校二校の3・4・5年生

内容：めえめえストーリーとは、ストローを使用して立方体を作り中に綿をつめ、来年の干支の羊の置物を作成する工作を行った。楽しい工作であるとともに思考力を使う工作内容にした。また、サランラップの芯で作成した大きな立方体ボールなどで遊ぶレクリエーションも行った。

3. ボランティア参加者名簿

斉藤萌	山本美穂
黒部雄也	
池村美季	
諸岡葵	
斉藤翔太	

4. 活動報告

参加小学生6名、参加学生8名で行った。工作のめえめえストロー作りでは、羊の置物を置く台にするために様々な形の箱を用意したり、ストローの色も6色ほどから選べるようにしたので、小学生たちは工夫を凝らして思い思いに自分のオリジナルの羊の置物を作成していた。また、小学生の参加人数が少なかったため、学生と小学生が密に交流をすることができた。このストローで立方体を作るのは、学生にとっても中々難しく、数学的思考を要するものだったため、ただの単純作業にはならず楽しむことができたのではないかと思う。

体育館で行ったレクリエーションでは、人間知恵の輪や大根抜きゲームなどのゲームや、サランラップの芯で作成した大きい立方体ボールを使用したゲームを通して交流を深めた。サランラップの芯で作成した大きい立方体ボールは、子どもたちが作った立方体の羊のストロー部分の大きさや長さを工夫して巨大ボールを作成し、レクリエーションの目玉とした。工作だけでなくレクリエーションも行うことによって、子ども達と学生の交流の促進を図った。

めえめえストロー作りとレクリエーションともに怪我などなく無事に終えることができた。

5. 活動風景



集合写真



工作が始まる前の様子



工作を協力して行っている様子



完成した「めえめえ」と笑顔の写真



レクリエーションの様子

6. 参加者からの感想

<小学生から>

- ・楽しかった
- ・仲が良いおにいさんができた

<大学生から>

- ・子どもたちがめえめえストローを仕上げたときにとても喜んでいて、笑顔がたくさん見れて良かった。
- ・新しい弟ができたようで良かった。
- ・本当に楽しかった。またこのようなボランティアがあればぜひ参加したい。

7. まとめ・反省

ボランティアに初参加の学生が多く、ボランティアの参加促進につながったのではないかと思います。また、学内の開催だったので学生も参加しやすかったとの声があり、学生のニーズに合った企画になったのではないかと思います。

工作は少し難易度が高かったが、子ども一人に対し学生一人がつくことが出来たのでスムーズに進めることが出来た。また、飾りつけ用のラメなども用意していたため最後まで飽きることなく工作を楽しんでいる様子だった。レクリエーションでは、参加人数にちょうど合った内容だったので時間通りに行うことが出来た。また、工作だけではなく、レクリエーションも内容に入れることにより、子ども達と学生の交流がより深まったように感じる。

反省点としては、近隣小学校2校の3・4・5年生対象（約500名）に募集をかけたが、募集件数が思っていたよりも少なかったため、次回からは広報の仕方を再考するべきであると思った。また、レクリエーションでは体育館の大きさに比べ人数が少なかったため、音楽をかけるなどして雰囲気作りを行うことをしてもよかったのではないかと

思う。また、ルール説明をより明確にするために口頭に限らず体育館内でも分かりやすい模造紙にまとめることも必要であった。

初めての試みだったので準備不足の点もあり、小学生や学生が集まるか不安だったが、無事終えることが出来たことに安堵している。

(文責：教育学科 2年 内藤悠)

8. 資料

主催：皇学館大学
ボランティアルーム
ごうがっかんたいがく
皇学館大学に
遊びに来ませんか!!

【開催内容】

1. ☆めえめえストロー作り☆
ストローを輪ゴムでつなげて、来年の干支の「オリジナル羊」を作ろう!
手のひらサイズのかわいい羊のおきものになるよ。

2. ☆みんなで遊ぼう☆
そのあとは、大学生の作った大きめの立体ボールで遊ぼう!!

日時：12月20日(土) 13:00~16:00
場所：皇学館大学
対象：小学3・4・5年生

参加者の方には、後日詳細を連絡致します。

参加希望の方は裏面の参加用紙に記入後、FAXで送ってください。
※先着30名までです。締め切りまで早く参加をお願いします。

締切：12月13日(土)

主催：皇学館大学
ボランティアルーム
小学生のサポートをする
スタッフ募集!!

小学生とふれあおう!
ストローを使った工作や、遊びのサポートをしてくれる学生を募集しています!!
やってみたい人は、気軽に「ボランティアルーム」まで来てください!

●日時：12月20日(土) 13:00~16:00
●場所：皇学館大学サフアリーナ

事前研修を予定していますので、参加してください

●日時：12月3日 or 10日(水) 13:00~15:00
●場所：536教室

締切：12月4日(木)お昼まで
申し込みはボランティアルームへ

サマースクール 活動報告

1. 目的

サマースクールは、松阪市社会福祉協議会が主催する企画であり、ボランティアルームスタッフは松阪市社会福祉協議会と合同で企画・運営を行ってきた。今年度でサマースクールは7回目である。

夏季休暇中の小学生（全学年）を対象としており、福祉のテーマに沿って、創造性や協調性を身に付けることができる内容を毎年実施している。また、参加してくれた大学生には、子どもたちと楽しい時間を過ごすだけでなく、子どもたちとのふれあいを通して接し方などを学んでもらうことを目的とした。

2. 活動内容

日時：平成26年8月7日（木）・20日（水）・29日（金）

時間：10:00～17:00

場所：松阪福祉会館

内容： 11:00 宿題を教える
13:00 写真たてづくり
14:10 お菓子作り
15:30 写真撮影・小学生解散
16:00 反省会

3. ボランティア参加者名簿

8月7日	8月20日	8月29日
鈴木健寛	中村里穂	鈴木可奈子
小森翼	谷利香	山本裕悠
曾我真也	横山明日香	前川ほの花
柴原美織	岩城あい	宮本叶
磯和希	大和田野澄香	阪本百合菜
水野杏梨	生川沙織	藤波亜梨沙
河口比加里	河口比加里	星山実希
茶木佐也佳		谷川託斗
奥山玲加		山口大貴
松本采加		

4. 活動報告

今回のサマースクールの工作では、ダンボールを再利用したオリジナル写真立て作りを行った。また、お菓子作りでは地域の調理ボランティアの方のお力添えによりフルーツゼリーとみたらし団子作りを行った。工作では、段ボールをカッターナイフを使用して切っていく作業があり多少不安があったが、子どもたちはそれぞれ工夫をしながら作業をしており、学生のサポートもあり無事怪我なく終えることができた。

また、前回の反省点である時間厳守を徹底した。そのため、大きな時間の遅れなどは特になくスムーズに工程を進めていくことができた。工作の時間は子ども達の集中力を考慮し一時間に設定した。作業の初めのアイデアを出す時間を短縮できるようにすればさらに良いかと考えられる。

5. 活動風景



6. 参加学生からの感想

- ・初めはお互い緊張してどう接していいか迷ったが、ある程度時間が経つと仲良くなれた。
- ・雰囲気が良く楽しくできた。
- ・子どもたちのサポートをすることができてよかった。
- ・子どもとふれあえるボランティアは楽しい。
- ・お菓子作りでたくさんの子と打ち解けることができた。
- ・はさみやカッターを使用した工作は、手伝う加減が難しかった。
- ・子どもたちが写真立てのアイデアを出すのに時間がかかってしまった。

7. まとめ・反省

参加してくれた子どもたちも学生たちからも、非常に高い満足感を得られたように思う。普段はあまりボランティアに参加したことの無い学生も、夏休みのこの機会だからこそ参加することができ、サマースクールはボランティアの参加促進にもつながっていると考える。初めは子どもも学生も緊張していたが、工程が進むうちに打ち解け合い、帰るころには別れを惜しむ姿も見受けられた。

また、サマースクールは恒例行事として松阪市内の子どもたちに浸透しつつあるというお話も伺うことができ、ボランティアルームとしても今後も力を入れていきたいと思う。

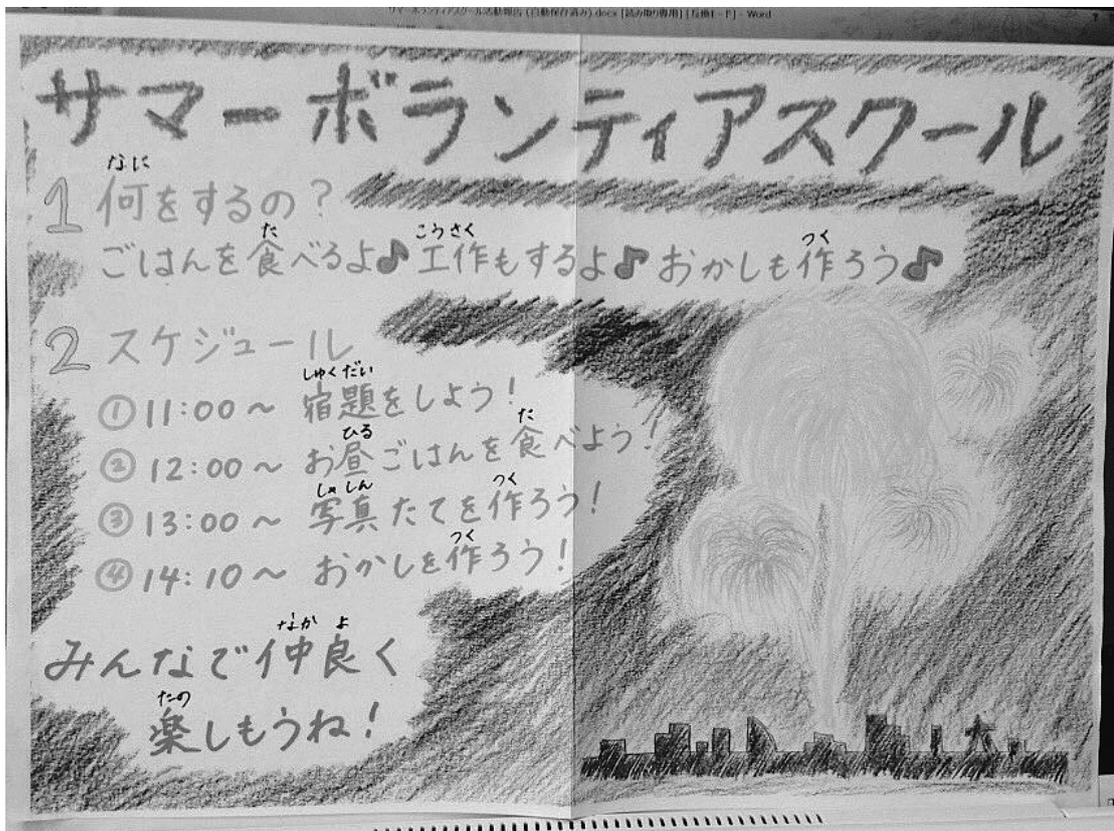
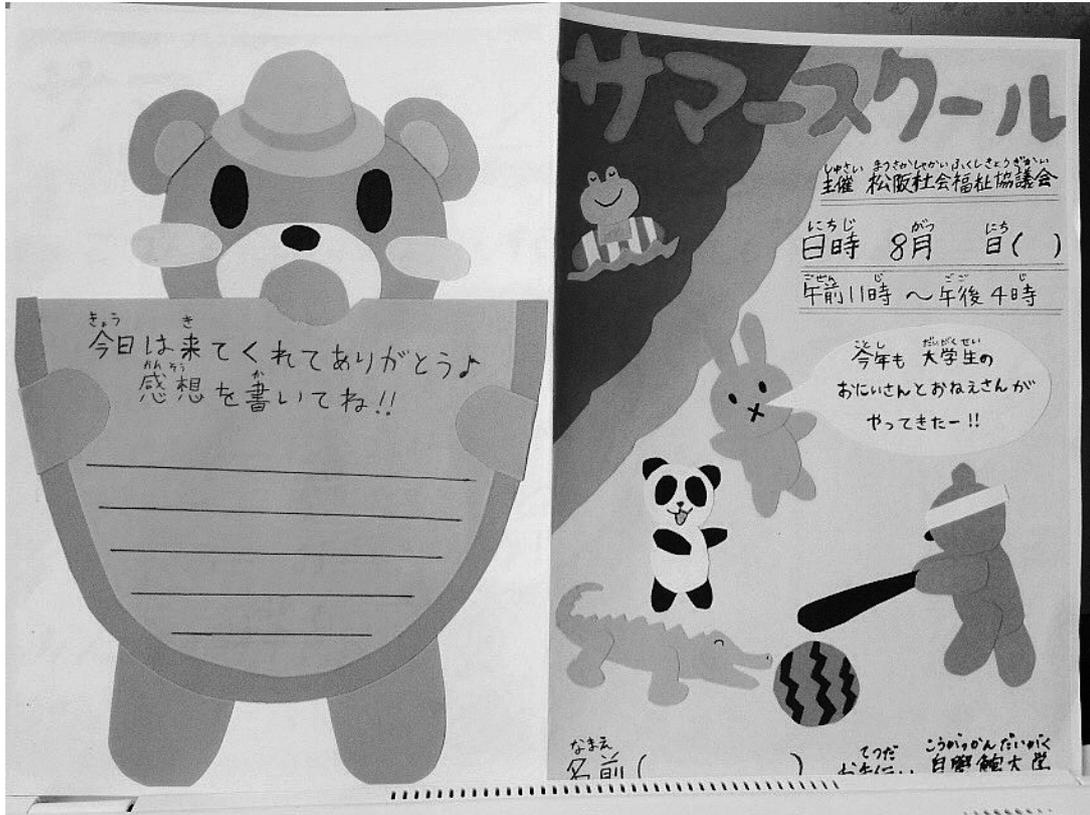
ボランティア参加学生を交えた反省会では、同じ班になった子どもとの交流に限られてくるため他の子どもたちとも交流できるようにして欲しいという反省点が挙がった。工作を進めていくうえでは安全面を配慮し班別にし、お菓子作りでは班は分けず工夫をしたが調理室が狭いためあまり交流が出来ないという声もあった。

子ども達と学生の交流を第一に考えるとなると、来年からは工作にこだわらず関わりが増えるような内容に変えていくことも視野に入れていくべきでは無いかと感じた。

サマースクールは、一年間の中でも大変人気のあるボランティアであるため、さらに充実した企画内容にしていくよう、ボランティアルームスタッフ一同力を入れていきたい。

(文責：教育学科 2年 内藤悠)

8. 資料



ボランティア通信 活動報告

1. 目的

- ・ ボランティア通信『ボラっう』でボランティアを紹介し、どのようなボランティアが寄せられているか知ってもらい、学生の参加意欲の向上をはかる。
- ・ ボランティア参加者の声を学生に伝えることで、ボランティアに対する認識を変え、より身近なものになるように働きかける。

2. 活動内容

- ・ ボランティア通信『ボラっう』を作成し、ボランティアルーム内、6号館下、ルーム前のラックに学生が持ち帰りやすいように配置して、ひと月に一回のペースで発行する。
- ・ 学生の目が行きやすいようにSNSで紹介したり、興味を引くようなトピックを載せる。
- ・ 学生が興味を引くように、表紙にイラストを入れ親近感を持ってもらえるようにする。

【月ごとの内容と配布日】

	5月号	6月号	7月号
配布日	5/8	6/10	7/3
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害報告会 ・ 献血 ・ 学走中 ・ メンタルフレンド ・ トピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学走中 ・ 勢田川七夕そうじ ・ レッツチャレンジ ・ アウトドア塾 ・ 心理テスト ・ トピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす de 伊勢神宮参拝 ・ まつさかふれあい体育祭 ・ ちびっこ博士グランプリ ・ 心理テスト ・ トピック
	11月号	12月号	1月号
配布日	11/12	12/9	1/14
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアル脱出ゲーム VOLU ・ ウィンターアドベンチャー ・ 聖母の家祭り ・ トピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めえめえストロー ・ リアル脱出ゲーム VOLU ・ ウィンターアドベンチャー ・ オレンジリボン ・ トピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外宮奉納ボランティア ・ 伊勢市民活動フェスティバル ・ トピック

- ・夏休み直前には夏休み中のボランティアを紹介したチラシを作成した。
- ・チラシを 100 部用意し食堂前にて学生に直接配布した。
- ・ボランティア促進を目的としているため、その月にオススメのボランティアを抜粋し、掲載した。掲載の仕方としては、日時、場所、内容を簡潔に表した。
- ・また先月にどのようなボランティアが行われたのか、またそのボランティアに参加した人の感想を掲載し、その感想を学生全体に発信した。
- ・冊子の発行部数と減り具合を確認し、発行部数を調整した。冊子を各箇所に配置するだけでなく、SNS を使用してより学生の目につきやすいようにした。
- ・月ごとにその時期にあった話題や季節に関連した表紙やトピックにすることで、より身近なものとなるように心がけた。

【夏休みの内容と配布日】

	夏休み
配布日	7/3
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外宮ちびっ子博士グランプリ ・子ども達と歌って♪踊ろうよ♪ ・宮川流域子ども川サミット in 玉城町

発行者名簿

奥野 紘規 (教育学部 3 年)

宮崎 遥香 (教育学部 3 年)

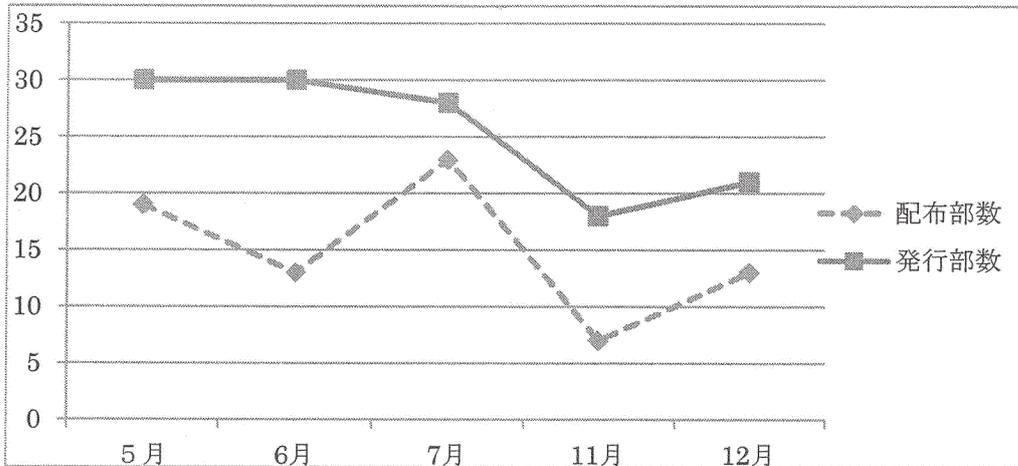
眞田 有伊 (現代日本学部 3 年)

小山 菜那 (現代日本学部 3 年)

宮本 紗代 (現代日本学部 3 年)

3. 配布状況報告

【各月の発行部数と配布部数の推移】



- ・5月は初回ということもあり、部数が伸びたと考えられる。
- ・7月は夏休み前で特別号を発行したことで、部数が伸びたと考えられる。
- ・11月は配布期間が短かったため、部数が伸びなかったのではないかと考えられる。

4. ボラ通表紙

【5月号】



【6月号】



【11月号】



【1月号】



5. まとめ

- ・夏休み号以外は想定していたより配布部数が伸びなかった。
- ・掲載していたボランティアの内容が重複してしまった月があり、掲載内容の確認の甘さを実感した。
- ・全員が役割をしっかりと分担し、それぞれの仕事をしっかりと果たすことができた。
- ・締め切りが間近な時があり、月ごとに出来栄がバラバラになってしまった。
- ・ボラっうの配布部数と参加者数の関係から、ボラっうがきっかけとなってボランティア活動に参加したのかわからないため、ボラっうの成果が出ているのかわからなかった。
- ・夏休み特集を手渡しで配布したため、普段ボランティアに意欲的でない学生にも関心を持ってもらう機会になった。

6. 今後の課題

ひと月に一回という配布ペースであるため、忙しくなり、どうしても締切を超えてしまうことがあったことから、毎月という発行ペースには無理があったように考えられる。そのため、発行ペースを落とすか、大型連休の前のみという発行のあり方を考える必要がある。また、表紙と中身ともにレイアウトに時間がかかったという理由からも、表紙をなくしてチラシという形にしてボランティアの内容をより詳細に伝えた方が良かったと考えられる。

そして、学生が自ら取るという形ではボランティアに関心がない人にとって効果が得られなかったように思われるため、夏休み号のように、手渡しで配布する形式の方が望ましかったと思われる。

ボラ通を既存の発行ペースで刊行するのであれば、ボラ通をあらかじめ作っておき、年度はじめのボランティアルーム紹介の際に一緒に紹介し、ボラ通も知ってもらうことで配布部数を伸ばすなどの方法が望ましいのではないかと推測される。

年間反省会 活動報告

1. 目的

平成 26 年度ボランティアルームの活動について学生スタッフがコーディネート業務や企画についての反省を行い、次年度へ生かすことを目的としている。ボランティア団体の方や社会福祉協議会の方との交流会を行い、学生スタッフが求めることを話し合い、ボランティア活動の企画及びボランティアを促進するための手立てを考えることも目的とした。

2. 活動内容

日時：平成 27 年 2 月 9 日(月)

時間：10 時～12 時

場所：712 教室

参加者：三重県社会福祉協議会ボランティアセンター、伊勢市社会福祉協議会、明和町社会福祉協議会、伊勢志摩バリアフリーセンター、ガールスカウト、ライオンズクラブ、

企画者：大谷奈都希 黒田ゆかり 松谷広志 出口真太郎 内藤悠

日程：

1. 教員あいさつ(守本友美教授)
2. 代表あいさつ(大谷奈都希)
3. 今年度の活動報告
 - ・コーディネート報告(久保圭)
 - ・ボランティア通信(奥野紘輝)
 - ・プルタブとキャップ回収(川村亮仁)
 - ・倉陵祭の模擬店(柘植美早)
4. 企画
 - ・災害報告会(松谷広志)
 - ・春のコミュニケーショントレーニング～学走中～(坂元美咲)
 - ・ボランティア促進会～脱出ゲーム VOLU～(高奥命)
 - ・めえめえストーリー(内藤悠)
 - ・サマースクール(出口真太郎)
5. ボランティアルーム活動への意見交流会
6. 代表あいさつ(黒田ゆかり)
7. 教員あいさつ(叶俊文教授)

3. 活動報告

今年度は、現代日本社会学部 守本友美教授を通じて三重県ボランティアセンター、伊勢市社会福祉協議会の方にお越しいただいた。また、日ごろからボランティア依頼をいただいている伊勢志摩バリアフリーセンターやライオンズクラブの方やボランティアルームに興味を持っていただいているガールスカウトの方にもお越しいただいた。

発表は代表教員である守本友美教授の年間反省会についてのあいさつから始まった。コーディネート統計では、今年度の依頼件数やコーディネート件数などについて報告した。その後、メール登録者にアンケートを行い、なぜメール登録をしているのにボランティアに参加しないのかを聞いてみるのはどうだろうかという意見をいただいた。

毎月発行したボランティア通信では、多大なる絶賛をいただき、「発行したら郵送してほしい」などとお褒めの言葉をいただいた。

キャップとプルタブ回収では、他にも集めているのでそれをボランティアルームに持ってきたら一緒に送っていただけるとの質問があった。

昨年度の懇親会のような形ではなく、来ていただいた方と学生スタッフをグループに分け、交流会を行った。グループは伊勢社会福祉協議会と明和町社会福祉協議会、三重県社会福祉協議会ボランティアセンター、ガールスカウト、ライオンズクラブと伊勢志摩バリアフリーセンターの4グループに分け、学生スタッフを数人配置した。15分～20分間の話し合いでは、各グループで『お互いが求めること』や、本日の感想、アドバイスをいただいた。その後各グループで話し合った内容についての発表を行った。内容は以下の通りである。

・伊勢社会福祉協議会・明和町社会福祉協議会

子どもたちを呼ぶ企画をするなら児童館の子どもたちを呼んでみたらいいよとアドバイスをいただいた。

・三重県社会福祉協議会ボランティアセンター

他大学の人やボランティア先の方にもこの年間反省会を聞いてほしいと思った。企画について、開始前に事前アンケートをとり、この企画での抱負を記入してもらい事後アンケートで振り返られるようにしたらどうかという意見をいただいた。またボランティアルームの年間スケジュールを年度初めに提示することで、企画の参加や年間反省会への参加が期待できるのではという意見もいただいた。

・ガールスカウト

少しずつ繋がりを広めていくためにボランティアをお願いしたい。また、学内で子どもたちを呼んで一緒に活動する企画があればガールスカウトも参加したいという意見をいただいた。その後、ボランティアに関してどのような活動があり、交通手段などの学生がどうしたらボランティアに参加しやすくなるかなど話しあった。

・ライオンズクラブ、伊勢志摩バリアフリーセンター

参加学生を増やすためにももっと企業と連携したらどうかという提案があった。大学生

のポジションは企業と高校生との真ん中であり、企業と大学が連携し、高校生に教えていくべきだというお話をいただいた。

代表あいさつでは、学生代表である黒田ゆかりが、ボランティアルーム活動への意見交流会を設け、ボランティア団体の方と学生の相互が求めることを共有できたことは良い機会であり、今後につなげていきたいということ述べた。

最後に教員あいさつでは、叶俊文教授が現在のボランティアルームへの依頼件数が減少している状況について話した。また、社会福祉学部の学生から直接引き継いできた学生が4年生となり、その学生達が社会福祉学部からの思いを後輩に受け継いでいくための重要な一年になるということを指摘していただいた。

5. まとめ・反省

総合的な反省として、2点あげられる。1つめは時間配分である。各発表の途中で質疑応答の場を設けたが、様々なご意見ご感想が出たため想定より時間がかかり、企画では質疑応答の時間を設けることができなかった。2つめは、連絡に関することである。開催日の決定が遅れ、各社会福祉協議会の方やボランティア依頼先の方に連絡が遅れてしまった。そのため、どこの団体の方が来ていただけるのか把握できていなかったことである。その結果、事前に決めていた交流会のグループの振り分けを当日急遽変更せざるをえなかった。

一方で、昨年度よりパワーポイントでの発表の質が向上していたところが良かった点である。試験期間中にも関わらず、学生スタッフが一丸となりパワーポイントの作成・修正に取り組み、事前に発表練習を行うことができた。また、交流会を行ったことで、来ていただいた方と今後繋がる話し合いができたことも良かった点である。

最後に、来ていただいた方のご意見などを参考にし、今後の活動に活かしていきたいと思います。

【文責：教育学科3年 大谷奈都希】

6. 活動風景

	
<p>司会進行</p>	<p>教員あいさつ</p>
	
<p>発表の風景</p>	<p>企画発表</p>
	
<p>代表あいさつ</p>	<p>交流会の風景 1</p>
	
<p>交流会の風景 2</p>	<p>話し合った内容を発表しました</p>

第 53 回倉陵祭模擬店 活動報告

1. 目的

ボランティアルームを倉陵祭に来ていただいた方に知ってもらい、ボランティアの依頼件数の向上を目指すと共に、より多くの学生にボランティアルームの存在を認知してもらうという目的のもと、倉陵祭で模擬店を出店することになった。

2. 活動内容

日時：平成 26 年 10 月 31 日(金) 13:00~19:00

平成 26 年 11 月 1 日(土) 9:00~19:00

平成 26 年 11 月 2 日(日) 9:00~16:00

場所：皇學館大学 9 号館前 駐輪場

担当者：柘植美早、坂元美咲、北村知暉

内容：

*販売した物

今年、ボランティアルームはチュロスを販売した。チュロスは約 15cm 程度の長さのもので、100 本入りの箱を 6 箱購入した。そのチュロスを半分に切り、バットに敷いてあるカカオ、バニラ、シナモン、カレーの 4 種類の味の粉に砂糖を混ぜ合わせたものをまぶし、アルミホイルで包んで販売した。

*販売価格

前売り券の値段を 130 円、当日販売の値段を 150 円に設定した。他の団体でチュロスを販売するところがあったので、より多くの方にも買ってもらえるよう値段を安く設定した。

*販売者

調理担当 1 人、受付に 2 人の最低 3 人は販売場所のテントにいるよう徹底した。実際は 3 人以上の人員を確保できたため、商品を他の出店団体に配達をしたり、看板を持って宣伝することもできた。また、多くの方がチュロスを買いに来てくれて混雑したときは、調理担当に人員をまわすこともできた。

*募金箱の設置

昨年に引き続き、今年も売り上げの一部を日本赤十字社へ寄付しようと考えていた。売り上げだけでなく多くの寄付金を集めようと考え、募金箱を設置し、募金を募った。また、多くの方にボランティアルームについて興味をもってもらうために、募金箱の横にボランティアルームのパンフレットを置いた。

3. 活動報告

*事前準備

倉陵祭当日の販売の際に、宣伝用の看板を2つ作成した。これらダンボールを再利用することに徹した。また、チュロスの味が4種類あったのでメニュー表も2枚作成した。学生スタッフ協力の下、短時間で事前準備が行われたように思う。

チュロスは業者から仕入れたので、送料がかからなかった。1箱がとても重く、長いので保管場所をどうするかで頭を抱えた。また、試作の段階では味付け用のパウダーを少量しか使用しなかったためかなり味が薄くなってしまったので、企画担当者が相談し味付け用のパウダーに加え、砂糖で味を付けることにした。さらに他の団体もチュロスを販売していたため、味のバリエーションを4種類に増やし、他との差別化をはかった。

*当日

倉陵祭初日である31日の13時から準備が行われた。テントなどはあらかじめ用意されていたが、大学から支給されるはずだった電化製品が企画担当者の不手際で貸し出し不可となり、他の人から借りるというアクシデントにみまわれてしまった。また、保存場所について考えが及ばず、急遽氷を買いに行ったりと企画担当者の準備不足、考えの甘さが目立ってしまった。さらに当日の雨で看板が水に濡れてしまったり、チュロスが水に濡れてふやけてしまったこともあったが、スタッフが自ら宣伝に行ったり、声を張り上げて呼び込みを行ってくれたので、一丸となって乗り切ることができたように思う。

前売り券200食分は完売し、前売り券を買った人の中からリピーターが数多く来てくれたことはうれしかった。チュロスはあまりサイズも大きくなく、手軽に食べられるので多くの人に買ってもらうことができた。中には4種類の味をすべて食べてくれた人もあり、とても有難かった。買ってくれた方は、何回も買いに来てくださったり、宣伝してくださる方もいた。みんなおいしそうに笑顔を見せてくれたように思う。

だが、あいにくの天気で思ったより売り上げが伸びず、1日目は約100食、2日目・3日目は約300食というようになり、3日間で合計700食近くしか売れなかった。これは3日間で1200食を目標にしていた量の約60%である。

売り上げの総額は127,260円に上り、設置していた募金箱へも1,430円の募金をしていただいた。純利益は15,601円となり、売り上げの7割である10,971円と募金の1,430円を足した12,401円を日本赤十字社に寄付し、3割をボランティアルームの運営費に充てた。

収支の詳細については次に示します。

*支出の部

チュロス	91,108 円
ガス代、その他経費	20,551 円
合計金額	111,659 円

*収入の部

前売り	26,000 円
1 日目	14,800 円
2 日目	30,300 円
3 日目	56,100 円
合計金額	127,260 円

*収支の差

支出	111,659 円
収入	127,260 円
純利益	15,601 円

募金	1,430 円
----	---------

4. 反省

事前準備などはそれほど時間をかけずに行うことができた。スタッフの協力のおかげでスムーズに販売までたどり着くことができたので、スタッフの団結力が深まったように思う。

当日はとにかく「チュロス売る」事だけしか考えておらず、そのために必要なものまで予測して行動することが出来なかった。その結果、準備するものが増えてしまい多くの人に迷惑をかけてしまったことが最大のミスである。企画担当者同士で密な話し合いが出来ていなかったことが原因であると考え。それぞれ担当者単独で行動してしまった面もあるので、お互いの状況をしっかり把握した上で声をかけるべきであったと感じる。

最初はチュロス販売する団体が 3 つあったので本当に売れるのかかなり不安であったが、買ってくれた人の中には「どこの団体よりもおいしかった」と言う声を多数いただき販売してよかったと思う。

今年の倉陵祭は 3 日間とも天気が悪く、移動販売も満足に行うことが出来なかったが、スタッフの必死な呼び込みのおかげで多くの人が集まってきてよかったと思う。だが、売り込むことに必死でボランティアルームを外部の方に知ってもらうために積極的に話し

かけに行くことが出来なかったように思う。また、ボランティアルームを外部の方に知ってもらうためにはただパンフレットを置くだけではなく事前に呼びかけをしたり、ボランティアルームの紹介の看板などを用意したりするなどの工夫をしたほうが良かったと感じる。

6. 模擬店の風景



【文責：教育学部教育学科 2年 柘植美早】

ペットボトルキャップ・プルタブ回収活動報告

1. 活動目的

ボランティアルームでは学内でペットボトルキャップ(以下エコキャップ)とプルタブの回収ボランティアを行っている。エコキャップを800個でワクチン1本、プルタブは800kgで車椅子1台と交換ができる。

昨年度もキャップの回収活動を積極的に行い、約36,000個のキャップを「NPO法人 エコキャップ推進協会」に送った。これは約40本のワクチンに相当し、今後もこの活動を継続的に行いたいと考えている。

昨年度より多くのキャップ・プルタブを回収し、1本でも多くのワクチンまたは車椅子に換えることが期待されている。今年度もキャップ・プルタブの回収活動を継続し、多くの学生に活動を理解してもらい、協力してもらうことを目的とした。

2. 活動内容

6号館ラウンジ前、倉陵会館1階・2階、クラブハウス内、ボランティアルーム前の5ヶ所にキャップ・プルタブの回収BOXを設置している。

～キャップ・プルタブの発送までの流れ～

- ① 学内に設置してある回収BOXからキャップ・プルタブを回収する。
- ② キャップを洗浄する。
- ③ 「規定のサイズよりも大きい」「シールが貼ってある」などを確認し、取り除く。
- ④ 戸外に新聞やブルーシートを敷き、並べて乾燥させる。
- ⑤ ダンボール箱にビニール袋を入れ、その中にキャップを入れる。
(プルタブも同様にして袋詰めする。)
- ⑥ 宛て先伝票を貼り、ガムテープで目張りをする。
- ⑦ 大学の学生担当に発送をお願いする。

※プルタブに関しては②～④の行程はない。

3. 活動報告

平成26年4月から平成27年3月まで継続的に回収・発送を行った結果、約2,000個の入るダンボール箱を10箱、約20,000個を発送することができた。これは、約25本のワクチンに相当することとなった。プルタブは約10kgを松阪社会福祉協議会に発送した。また、この活動を当ルームの企画「年間反省会」の中で外部の方々にも発表を行った。

4. まとめと反省

約 11 ヶ月間回収活動をおこなったが、昨年に比べて発送数が少なかった。多くのスタッフがコーディネート業務や学内で行っている企画に携わっていたこともあり、回収及び洗浄に時間を取ることができなかった。また、学生担当からダンボール箱をいただいており、大きなものが残っていない・大きさが統一されていないことなども原因の一つではないかと考えられる。

学生に対してキャップ・プルタブ回収についての意見を聞く機会を設けることができなかった。今後はアンケートや SNS などを通して学生がこの活動についてどのように感じているか、どのくらい協力してくれているのかを知っていききたい。さらに協力してくれた学生や教員の方々に対して「どのくらい集まったのか」などの結果も学内での掲示や SNS で発信し報告をしていくことを考えている。プルタブは車椅子を換えるまでの重量にまだまだ足りないので呼びかけや掲示板などでより多くのキャップやプルタブの回収に協力してくれる学生を増やしていきたい。

(文責:教育学部教育学科 3 年 川村亮仁)



3. アンケート報告

平成 26 年度全学年アンケート活動報告

1. 目的

学生がどのくらいボランティアを行っているのか、ボランティアに対してどのようなイメージを持っているのかを平成 26 年度の調査として実施し、コーディネートやボランティア参加促進等に活かすために行った。

2. 実施期間

平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月

対象者:全学年

配布方法:1, 2 年生は大講義室で行われる講義の前にアンケート用紙を配布、

3, 4 年生については先生方をお願いしてゼミ等の時間に配布・記入していただいた。

3. アンケート内容

アンケートの内容は主に 3 つの要素に分けた。ボランティアへの参加・不参加について、ボランティアに対するイメージについて、当ルームのメール登録について尋ねた。

4. アンケート結果

下の表はアンケートを回答した学生の人数を示したものである。

回答は違いを比較するため、主に学科ごとに集計している。

以下の表は今年度アンケートを回答した学生の人数である。

表 1 各学科の回収人数

学科	人数
神道学科	164名
国文学科	255名
国史学科	183名
コミュ学科	183名
教育学科	639名
現日学科	243名

① ボランティアの参加経験

この1年間で、ボランティアに参加したことがあるかを質問した。
選択肢は以下の通りである。

1. はい 2. いいえ

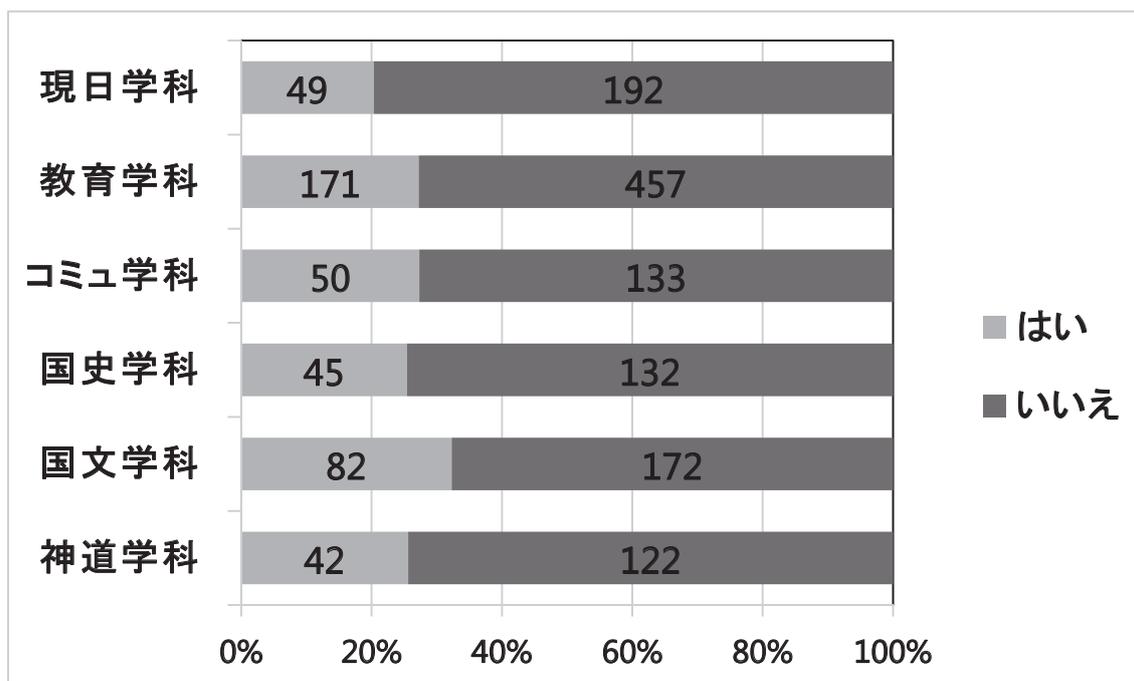


図1 各学科のボランティア参加者数

図1が示すように、今年度も「いいえ」のほうが多い結果となった。しかし昨年と比較すると参加学生が大幅に増えていることが分かった。神道学科が約2倍、国文学科が約1.5倍、コミュニケーション学科が約2倍も増えていた。逆に教育学科や現代日本社会学科の学生の人数が減少している。「教育学科や現代日本社会学部以外の学生にもボランティアに行ってもらいたい」という思いで今年度も様々な活動を行ってきた。参加学生が増加したことは大変よいことであるが、過去にボランティアに参加した学生数が減らないようにしていかななくてはならないことが今後の課題となってくることが分かった。

② 参加したボランティアのジャンル

①で「はい」と答えた学生に、どのジャンルのボランティアに参加したかを質問した。
選択肢は以下の通りである。

1. 子ども系 2. 福祉系 3. 地域系 4. 災害系 5. その他

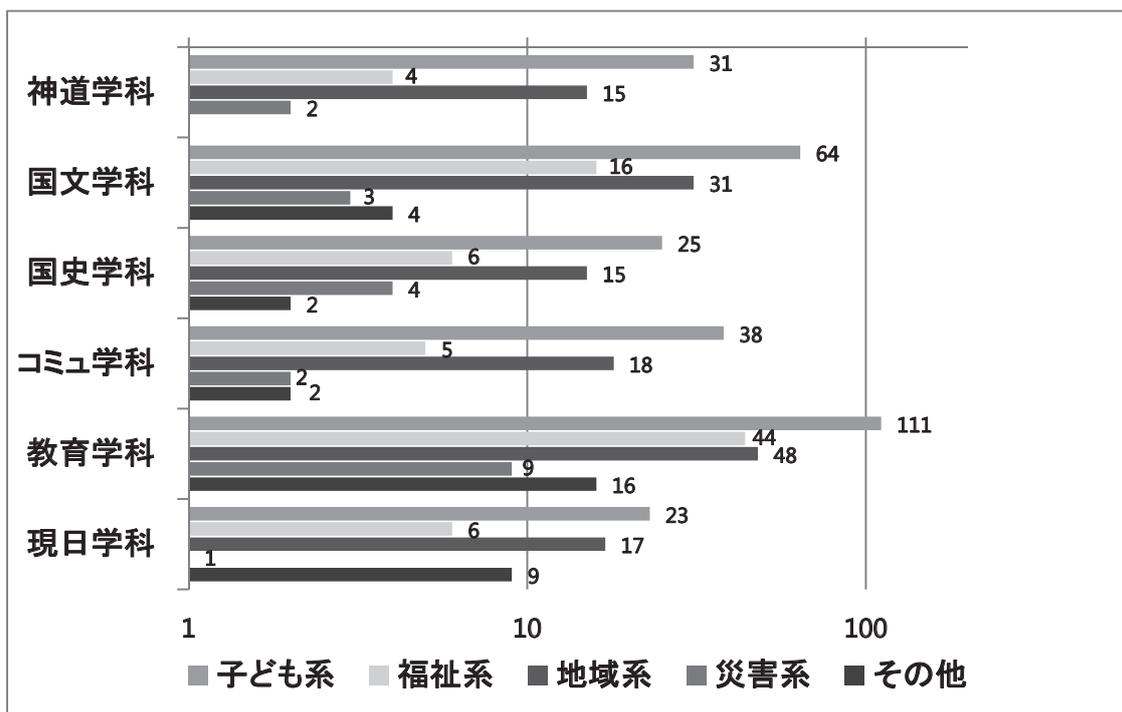


図2 ジャンル別のボランティア参加者数

教員を目指す学生が多いため、子どもと関わることができる「子ども系」のボランティアに参加する学生が各学科で多くなっている。「地域系」のボランティアも近くて参加しやすい、地元で貢献したいと考える学生が多いことから増えていると思われる。「福祉系」はどのようなボランティアなのか分からないと感じる学生が多いのか3つのボランティアの中では一番参加が低くなっている。福祉ボランティアに興味を持ってもらえるように情報発信に工夫が必要になってくる。「災害系」はスタッフが実際に東北などの活動を見て興味を持つ学生も多いが、金銭的な面や機会が合わないなどの理由から参加者が少ない。「その他」では海外に関するものやオープンキャンパス、選挙活動の手伝いなどがみられた。

③ ボランティア情報の受け取り方

① で「はい」と答えた学生にどこからボランティアの情報を得たのかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. ボランティアルーム
2. クラブ、サークル
3. 友人関係
4. その他

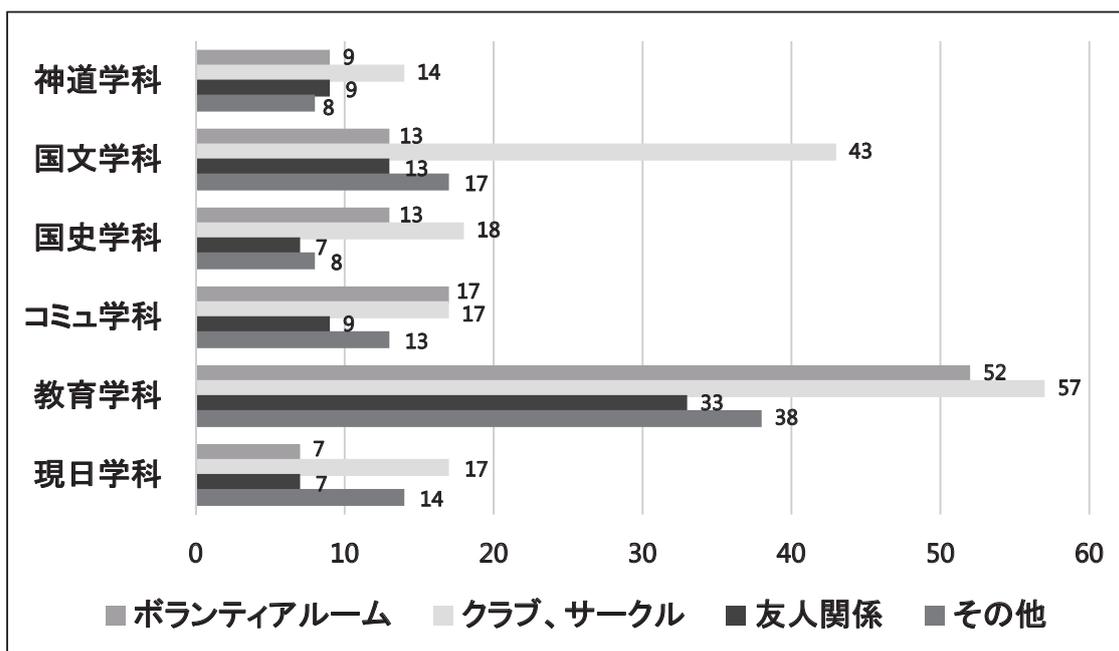


図3 ボランティア情報の取得先

どの学部でも「クラブ、サークル」からボランティア情報を受け取り、ボランティア活動をしている学生が多いことが分かった。学内にあるクラブではボランティア団体と提携を結んでいるなど自分たちで連絡を取り合い、特定のボランティアに参加するなど責任をもって活動している、または安心して活動に参加できるためではないかと考えられる。当ルームスタッフも専門性を持ち、学生が安心してボランティアに参加できるようにコーディネートをしていくことが課題となってくる。「その他」では、大学のゼミや地元のボランティア団体などから情報を受け取っている学生が多い。または地域雑誌やインターネットなどから情報を受け取っている学生もいることが分かった。

④ ボランティアに参加をしない理由

① で「いいえ」と答えた学生に、ボランティアに参加をしなかった理由を質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 時間がない
2. 交通手段がない
3. ボランティアに興味がない
4. 興味はあるが参加する勇気がない
5. 一緒に参加する人がいない
6. その他

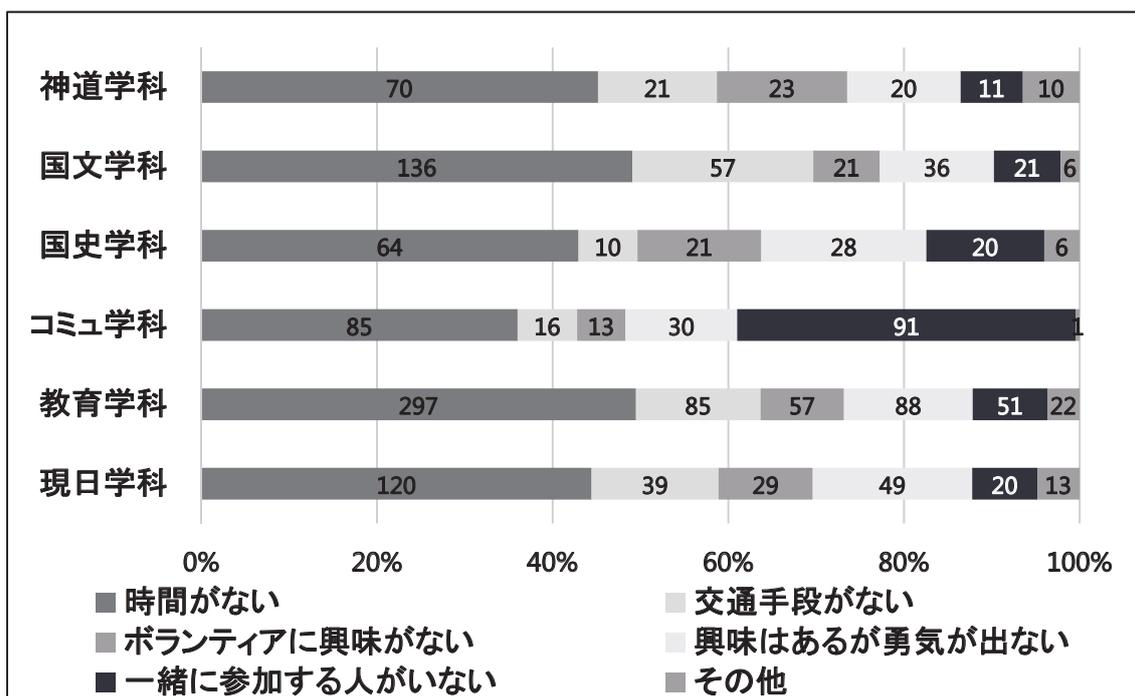


図4 ボランティア不参加の理由

どの学科でも「時間がない」と答えた学生が多い。アルバイトやクラブ・サークル、自分の時間を持ちたいと考える学生が多いためであると考えられる。また、ボランティアの開始時間が早朝であることも要因の一つであると考えられる。昨年度はこの結果を活かし、学内に子どもを呼んで交流するという企画やペットボトルキャップ&プルタブ回収など学内でも行える活動を行った。また「興味はあるが勇気が出ない」「一緒に参加する人がいない」という学生も多い。このような初めてボランティアに参加するまたは不安を感じている学生に対する企画を思案しており、参加するきっかけとしてもらいたい。「その他」では情報が来ない、部活でボランティアに参加している、参加の仕方が分からない、当ルームに入りにくいなどの回答があった。

⑤ 子ども系に関するボランティアについて

子どもとかかわるボランティアにどのようなイメージを持っているかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 楽しそう
2. 経験を積みそう
3. 迷惑がかかりそう
4. 何をすればいいのかわからない
5. その他

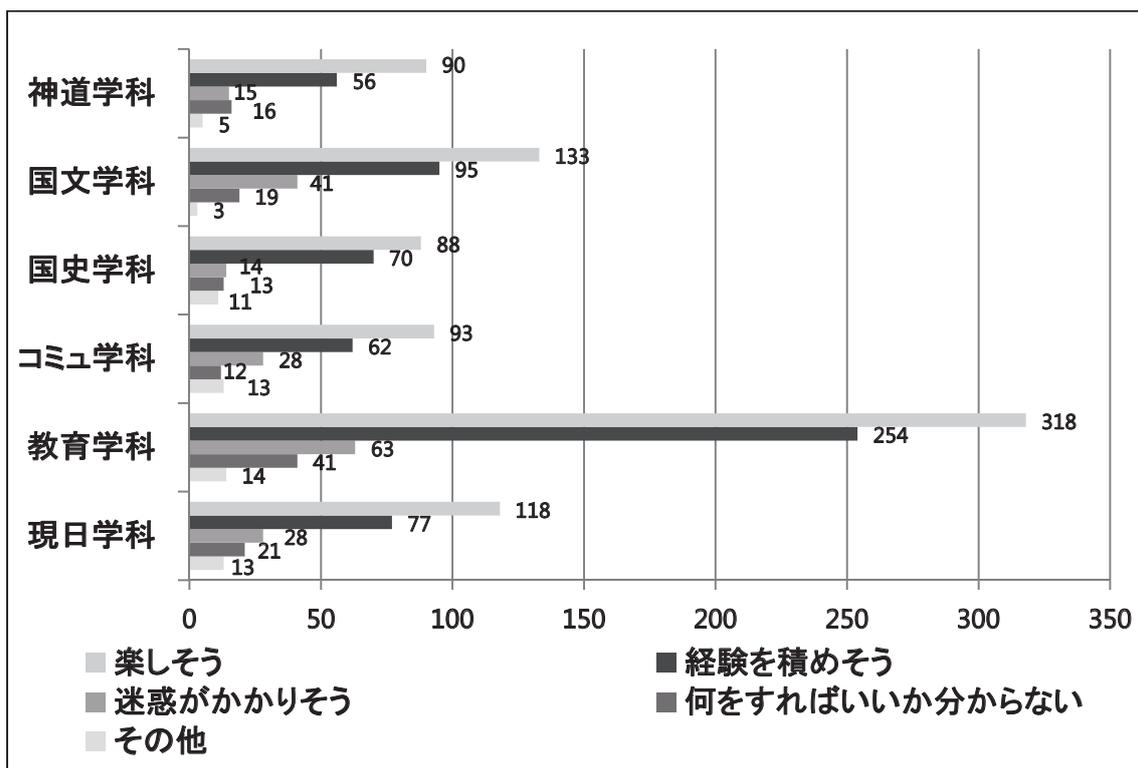


図5 子どもとかかわるボランティアに対するイメージ

子どものボランティアには「楽しそう」や「経験を積める」というイメージを持った学生が多い。このようなイメージを持っているからこそ子ども系のボランティアに参加を考える学生が多いということが分かる。ボランティアに参加しても「何をすればいいかわからない」と感じ「迷感がかかりそう」と考える学生もいる。コーディネートをする際に参加することに意義があるといった大切さを伝えなくてはならないと改めて感じた。「その他」では、子どもが苦手な接し方が分からない、責任を負いたくないなどの意見が合った。このような学生に対しては地域系や福祉系のボランティアを紹介するなどをしている。

⑥ 福祉系に関するボランティアについて

福祉に携わるボランティアにどのようなイメージを持っているかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 楽しそう
2. 経験を積みそう
3. 迷感がかかりそう
4. 何をすればいいのかわからない
5. その他

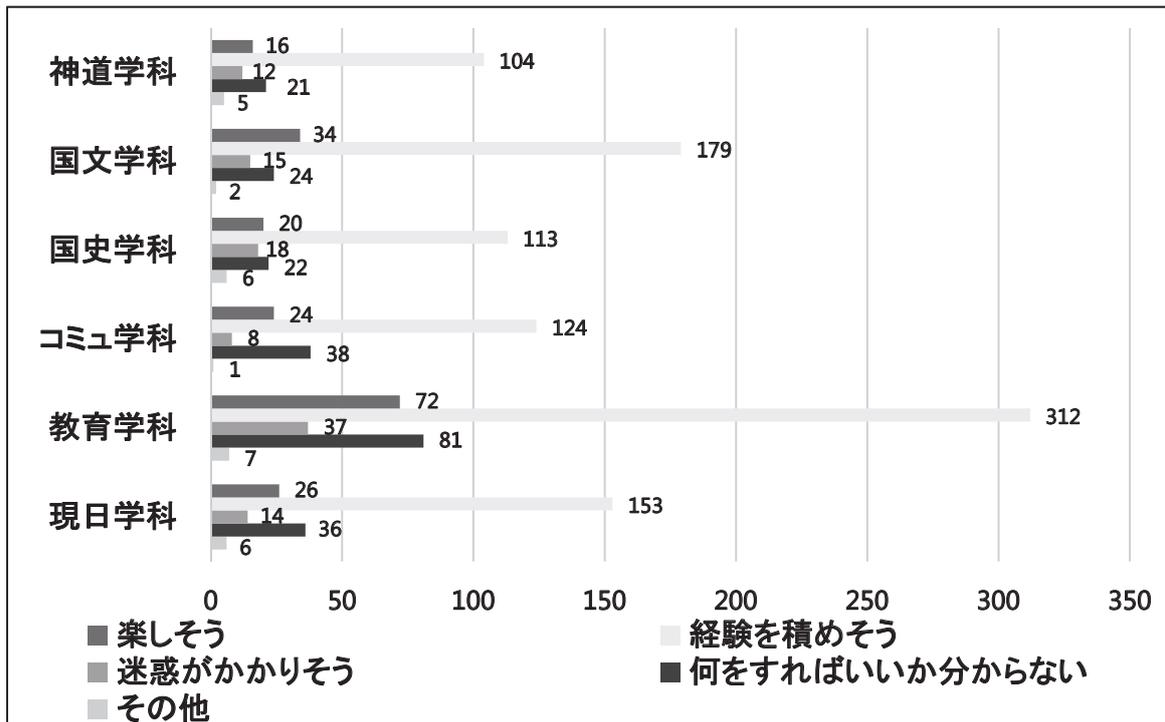


図6 福祉にかかわるボランティアに対するイメージ

どの学科でも「経験を積みそう」というイメージを持った学生が多い。他のボランティアに比べ、かしこまらなければならない、専門性が必要だと感じていると思われる。また参加したことのない学生から見れば「何をすればいいかわからない」というイメージを持っている学生が多い。しかし実際に参加した学生からは「楽しかった」と答えてくれた学生もおり、参加しやすいようにコーディネートをしていく必要がある。介護実習の前に経験になるなど学生にとってメリットと思えるような情報の伝達の方法も考慮していかなければならない。「その他」の意見では、大変そうと思う学生が多かった。

⑦ 地域系に関するボランティアについて

地域貢献などのボランティアにどのようなイメージを持っているかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 楽しそう
2. 経験を積みそう
3. 迷惑がかかりそう
4. 何をすればいいかわからない
5. その他

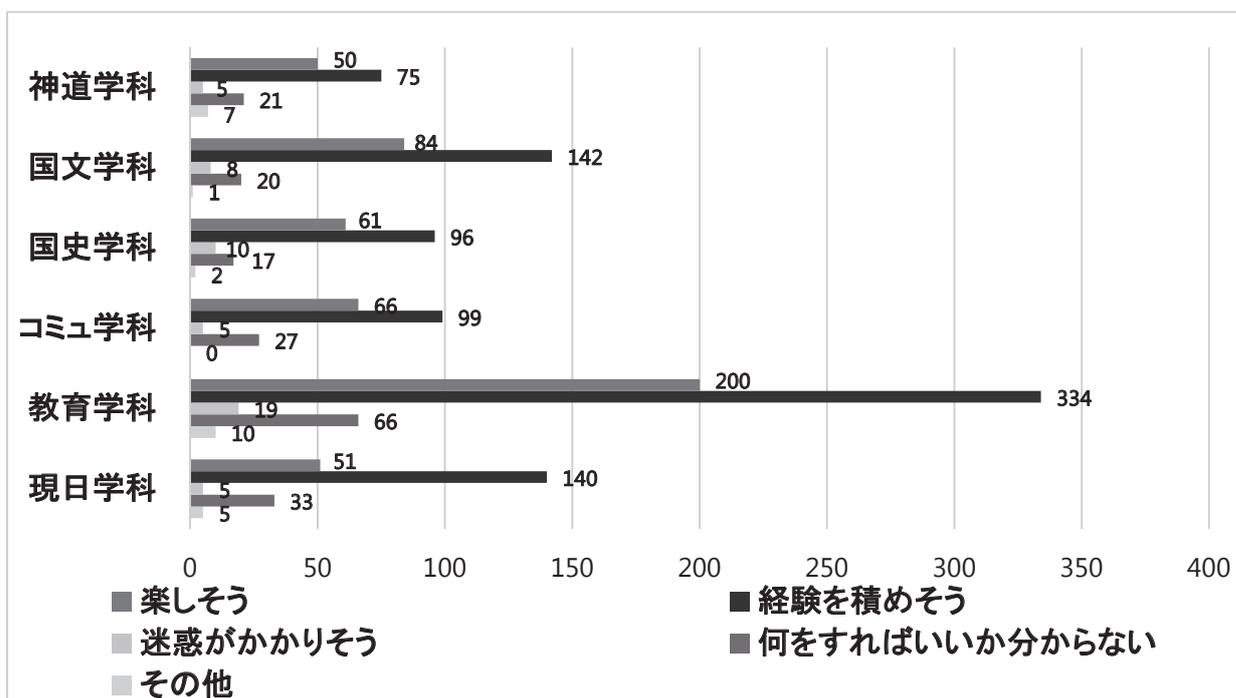


図 7 地域にかかわるボランティアに対するイメージ

地域に関するボランティアも「経験を積みそう」の回答がどの学科でも多かった。地元
の祭りなどその土地特有のものなど新たな発見ができる・地元に貢献できるということも
理由なのではないかと考えられる。また地元だからこそボランティアをよく知ることがで
き参加しやすいというイメージから「楽しそう」の回答も多かった。しかし別の地域から
参加したような学生はどのような祭りなのか知らない、ボランティアへ行っても困惑して
しまうためか「何をすればいいかわからない」という回答もあった。このようなイメージ
を持っている学生のため、ボランティア情報を発信するときはその祭りがどのようなもの
であるかを伝えることができるようにしていかななくてはならない。「その他」の意見では地
元の人と交流することができる、地元以外には行きたくないなどがあつた。

⑧ メール配信について

当ルームは学生に「子ども系」「福祉系」「地域系」の好きなジャンルのボランティア情
報を選択し、メールで受け取ることができる“メール登録”をしてもらっている。
全学生に対し、このメール登録をしているかを質問し、「いいえ」と回答した学生・メール
登録をしていない学生に、なぜメール登録をしていないのかを質問した。
選択肢は以下の通りである。

1. 手順が多い
2. 登録方法が分からない
3. メール配信を知らなかった
4. 以前登録していたがやめた
5. 必要がない

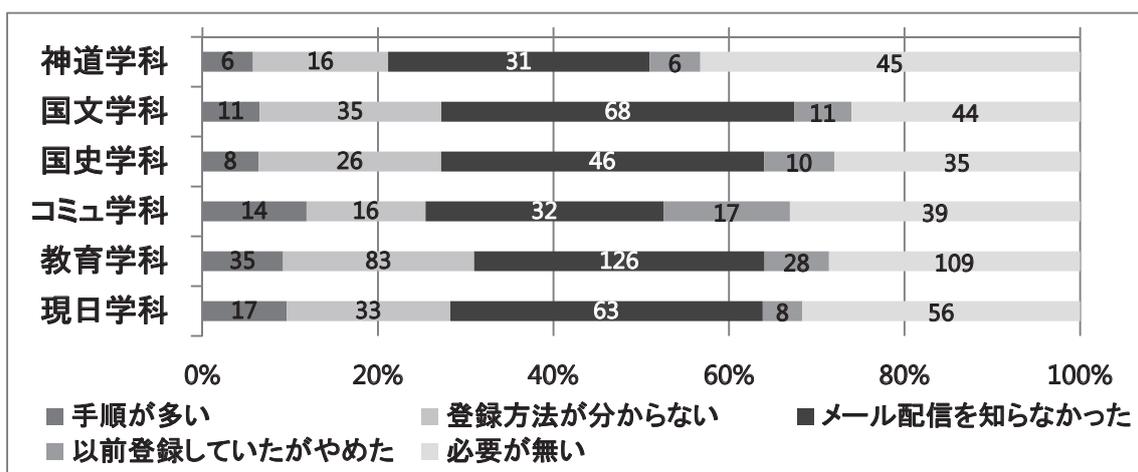


図8 メール登録をしない理由

どの学科でも「必要がない」という回答が多い。当ルームのコーディネートがなくともボランティアに参加できる学生もいるが、他の結果からボランティアに行く時間がない、または興味がないと考える学生も多い。「メール登録を知らなかった」と回答した学生も多い。新年度のガイダンスなどで登録については説明する機会を与えてもらってはいるが、説明が理解してもらっていない学生や分かりにくかったという意見もあり、プレゼンする方法も考慮していく必要がある。「手順が多い」「以前登録していたがやめた」と感じている学生へはスタッフのコーディネートや登録方法の伝達の仕方を上達させていき、このような考えを持っている学生の人数を減らしていきたい。

⑨ 感想、要望や改善点

最後に感想、要望や改善点などを記入してもらった。

以下はその一部を掲載する。

- ・多くのボランティア情報を得ることができ、とても助かっています。(1年・国史)
- ・休暇を利用したボランティアを現段階よりも増やしていただきたいです。(1年・現日)
- ・すこし登録方法が分かりづらかったです。(神道・1年)
- ・またお越し下さいと書いてあって、ボランティアルームに行っても開いていない時がある。必ず人がいる時間などがあれば知りたい。(2年・教育)
- ・1年生の時、花を作ったサマースクールに参加させて頂き楽しかったです。(2年・教育)
- ・被災地に行くのにどれくらいお金がかかるのか知りたい(2年・神道)
- ・他県との交流もしてほしい。(3年・教育)
- ・書類整理できていなかったのか、申し込み行ったときめっちゃ待ちました。(3年・現日)
- ・ツイッターでも情報を流してほしい(3年・神道)
- ・スタッフが優しく教えてくれてよかったです!!(4年・コミュ)
- ・部活では経験できないことが多く、将来のためになった。(4年・国文)

⑩ まとめ・反省

今年度のアンケートでは、参加ジャンル、メール配信について質問し、改善すべき点を見出すとともに、学生が各ジャンルのボランティアに対してどのようなイメージを持っているのかを調査した。“子ども系”“福祉系”“地域系”において共通して学生が感じていることが「何をしたいかわからず、ボランティア先に迷惑をかけてしまうのではないか」という思いである。初めてボランティアに参加をしよう・興味があると思ってもこのような思いがあってはなかなか一歩を踏み出せないという学生は多い。我々、学生コーディネーターはこのような学生に対して、一歩を踏み出せるように背中を押せる存在でなければならない。スタッフでも実際にボランティアに参加し、その良さを伝えていき、参加しやすいよう行動していかなければならない。不安を感じる学生にとって、頼りになるような場所であることが求められる。今年度の企画の反省でも企画等に参加をする人数ばかりに注意が向いていたという意見を持った学生スタッフもあり、ボランティア参加希望の学生のきっかけになるようなコーディネートが求められる。

今年度は「学生に対して何を調査するのか」をなかなか決められず、配布する時期が例年よりも遅くなってしまった。学生スタッフの辞退などの事情によりアンケートに協力をしてきているスタッフ全体の把握・共有ができていなかったことも反省すべき点である。来年度では「何を聞くべきか」を早々に決定し、実施しなくてはならない。また、調査の仕方などアンケート自体をどのようにしていくかも考慮していく必要がある。しかしアンケートの結果から、書類の管理や開室時間の提示など学生が当ルームに何を求めているか、ボランティアの詳細や情報発信の方法など、どのようなコーディネートが必要とされているのかを知ることができ、来年度のコーディネートや企画に活かしていきたい。

【文責:教育学部教育学科3年生 川村亮仁】

4. 資 料

平成 26 年度 年間スケジュール

日時	場所	活動内容
4月10日(木)	511 教室	第一回全体ミーティング
4月23日(水)	712 教室	災害報告会
4月24日(木)	531 教室	第二回全体ミーティング
5月20日(火)	芝生広場	学走中
5月29日(木)	図書館	第三回全体ミーティング
6月8日(日)	大学	第一回オープンキャンパス
6月26日(木)	図書館	第四回全体ミーティング
7月12日(土)	大学	オープンキャンパス
7月13日(日)	大学	オープンキャンパス
7月16日(水)	533 教室	サマースクール事前研修
7月17日(木)	図書館	第五回全体ミーティング
7月17日(木)	533 教室	サマースクール事前研修
7月18日(金)	533 教室	サマースクール事前研修
7月31日(木)		第六回全体ミーティング(上半期反省会)
8月7日(木)	松阪社協	第一回サマースクール
8月17日(日)	大学	オープンキャンパス
8月20日(水)	松阪社協	第二回サマースクール
8月26日(火)		第七回全体ミーティング
8月29日(金)	松阪社協	第三回サマースクール
9月19日(金)		第八回全体ミーティング
10月23日(木)	図書館	第九回全体ミーティング
10月31日(金)	大学	第 53 回倉陵祭
11月1日(土)	大学	第 53 回倉陵祭
11月2日(日)	大学	第 53 回倉陵祭
11月18日(金)	7号館 5階	リアル脱出ゲーム
11月27日(木)	図書館	第十回全体ミーティング
12月18日(木)	図書館	第十一回全体ミーティング
12月20日(土)	721 教室	めえめえストロー
1月15日(木)	図書館	第十二回全体ミーティング
2月9日(月)	712 教室	平成 26 年度年間反省会
2月17日(火)	図書館	第十三回全体ミーティング
3月13日(金)	図書館	第十四回全体ミーティング

平成26年度 ボランティア募集一覧

No	名称	所在地	施設名	内容	期間、日時	その他	締切	参加学生
1	志摩ロードパーティー2014 ～バリアフリーパーティー～	志摩市	志摩スペイン村	参加者の伴走、サポート、見守り、介助等	平成26年4月20日(日) 7:50～13:00	事前説明会あり	平成26年 3月25日(火)	
2	障がい者スポーツ大会の ボランティアスタッフ	津市	三重県身体障害者 総合福祉センターグラウンド	フライングディスク競技の進行に関する補助など	平成26年5月10日(土)8:30～	準備:5月9日(金) 13:30～ 昼食有り 申込用紙あり	平成26年 4月17日(木)	
3	献血							
4	アウトドア塾(リスクマネジメント& ファーストエ이지コース)	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	野外活動における企画立案時の危険回避から、 トラブルの対処法、ファーストエイズ実技など	平成26年5月17日(土) 13:30～16:30	参加費あり	平成26年 4月24日(木)	
5	アウトドア塾 (キャンプファイヤー実践コース)	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	企画、準備、指導、実践までのノウハウを習得	平成26年5月17日(土) 18:00～21:00	参加費あり	平成26年 4月24日(木)	
6	アウトドア塾 (野外炊飯実践コース)	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	野外炊飯のコツ等の指導	平成26年5月18日(日)	参加費あり、 事前研修有り	平成26年 4月28日(月)	
7	レッツチャレンジ2014	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	キャンプの中で子どもたちをサポート	平成26年8月19日(火) ～8月23日(土)	研修あり	平成26年 6月26日(木)	
8	志摩ふれあい教室	志摩市	志摩市教育支援センター	不登校児童・生徒の諸活動の支援	平成26年月に12回程度		平成26年 4月22日(火)	
9	ふれあい広場スタッフ	伊勢市	ふれあい広場	スタッフ	平成26年5月18日(日)	準備:5月17日(土) 昼食あり	平成24年 4月24日(木)	
10	わくわくファミリーキャンプ	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	親子キャンプのお手伝い	平成26年10月18日(土) ～10月19日(日)	参加費あり 研修あり	平成26年 9月4日(木)	
11	ウインターアドベンチャー	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	創作活動、補助等	平成27年2月7日(土) ～2月8日(日)	参加費あり、 事前研修有り	平成26年 12月18日(木)	
12	親子deキャンプ	鈴鹿市	三重県立鈴鹿青少年センター	親子キャンプの手伝い	平成27年3月7日(土)	参加費あり、 事前研修有り	平成27年 2月5日(木)	
13	福祉キャンプ	大王町	大王町野外活動センター	自閉症児・者の活動のサポート	平成26年5月24日(土) ～5月25日(日)	事前研修あり	平成26年 5月13日(火)	
14	第12回6施設合同運動会	玉城町	わかば学園運動場・体育館	利用者の直接介助	平成26年5月24日(土) 10:00～15:00	参加名簿あり	平成26年 5月13日(火)	
15	松阪市障がい児サマースクール		ハートフルみくも等	レクリエーションや介助等	平成26年7月24日～8月29日 16日間	昼食あり 名簿有り	平成26年 7月10日(木)	
16	まつさかふれあい体育祭	松阪市	ハートフルみくも スポーツ文化センター	体育祭の参加者の補助	平成26年6月8日(日) 9:00～15:00	昼食あり	平成26年 5月22日(木)	
17	動作法セミナー	鈴鹿市	鈴鹿青少年センター	臨床動作法について学ぶ	平成26年8月17日(日) ～8月23日(土)	参加費あり	平成26年 6月10日(火)	
18	車イスde伊勢神宮参拝 ボランティア	伊勢市	伊勢神宮 内宮	車イス介助、参拝者との交流	平成26年6月8日(日) 7:00～11:00	参加費あり 研修あり	平成26年 5月15日(木)	
19	2014三重県ふれあいスポレク祭	四日市市	四日市ドーム	参加者との交流	平成26年5月20日(火)	送迎あり	平成26年 5月20日(火)	
20	第19回勢田川七ヶ大掃除	伊勢市	伊勢地区医師会、 東邦ガス駐車場、一色公園	草刈り、ゴミ拾い	平成26年7月6日(日) 8:00～9:00	小雨決行	平成26年 7月6日(日)	
21	第12回キャンドルナイト伊勢	伊勢市	勢田川	勢田川にキャンドルを並べる	平成26年8月2日(土)17:00～、 3日(日)7:00～		平成26年 7月29日(火)	
22	第2回みえこどもの城キッズ おしごと広場ボラ	松阪市	三重県立みえこどもの城	各ブースでの受付や案内	平成26年7月5日(土)、6日(日) 9:00～17:00	謝礼あり	平成26年 6月17日(火)	
23	サマースクール	松阪市	松阪市社会福祉協議会	子どもと工作やお菓子作り	平成26年8月7日(木)、20日(水)、 29日(金)10:00～17:00	事前研修あり	平成26年 7月15日(火)	
24	外宮 ちびっこ博士グランプリボラ	伊勢市	伊勢市民活動センター	クイズ大会のサポート	平成26年8月1日(金) 8:30～13:00		平成26年 7月24日(木)	
25	子どもたちと歌って♪踊ろうよ♪	伊勢市	風の広場	障がいを持つ子どもとの交流、サポート	平成26年8月6日(水)、 21日(木)10:00～12:00		平成26年 7月17日(木)	
26	ミタメモリアルホーム 『夕涼み会』	度会郡	宮の里 駐車場	イベントのサポート	平成26年7月26日(土) 16:30～19:30	送迎あり	平成26年 7月3日(木)	
27	ESDユネスコ世界会議 学生ボランティア	名古屋	中部国際空港	世界各国の代表団の送迎、付き添い	平成26年11月9日(日) ～11月12日(水)	選考あり	平成26年 6月26日(木)	
28	療育キャンプ	津市	津市青少年野外活動センター	自閉症児・者の活動のサポート	平成26年8月16日(土)13:00 ～8月17日(日)11:00	宿泊と 日帰りコースあり	平成26年 7月17日(木)	
29	HANABI*美しいボランティア2014	伊勢市	宮川河畔	ゴミの分別案内	平成26年7月19日(土) 15:30～23:00		平成26年 6月26日(木)	
30	M祭り2014 ～まいぶんニのぼりをつくらう～	津市	三重県総合文化センター	のぼりを作るサポート	平成26年8月3日(日) 9:00～17:30	昼食あり	平成26年 7月15日(火)	
31	まいぶん祭2014 体験工房、火おこし体験など	松阪市	三重県埋蔵文化財センター 雑野分室	勾玉作り、石包丁作り	平成26年8月26日(火)、27日(水) 9:30～15:30	事前打ち合わせ あり	平成26年 7月15日(火)	
32	鳥羽市放課後児童クラブ	鳥羽市	エンゼル・クラブ、たんぼぼ	子どもたちの指導及び外出時の補助	平成26年7月19日(土) ～8月31日(日) 9:00～18:00	謝礼あり	平成26年 7月10日(木)	
33	「ふくしまつり」あのう	津市	安濃中央総合公園内 多目的グラウンド	バルーンアートを作って花火大会来場者にプレゼント	平成26年8月15日(金)		平成26年 7月31日(木)	
34	宮川流域子ども川サミット in 玉城町	玉城町	アスピア玉城ふれあい広場	ソーセージ作り、BBQなど	平成26年8月21日(木) 9:00～17:45	参加費あり	平成26年 7月31日(木)	
35	宮川親子デイキャンプ	伊勢市	宮リバー度会パーク前 河川敷	体験の参加者のサポート	平成26年7月26日(土) 7:00～18:00		平成26年 7月10日(木)	
36	聖マッセヤ会 夏祭りボランティア	津市	マッセヤ会	会場設置、模擬店販売補助	平成26年8月2日(土) 15:00～21:00で 可能な時間		平成26年 7月29日(火)	
37	アミーユ松阪	松阪市	アミーユ松阪	施設の夏祭りの出店の手伝い	平成26年8月2日(土)16:00～	無料で 浴衣の着付け	平成26年 7月31日(木)	
38	さくら保育園	松阪市	さくら保育園	夏祭りで出店の手伝い	平成26年8月2日(土)15:30～	はっぱを着用	平成26年 7月29日(火)	
39	工房 やまの風	松阪市	鯛屋旅館周辺	鈴の音での出店の手伝い	平成26年8月2日(土)16:00～		平成26年 7月31日(木)	
40	向野園	松阪市	向野園	夏祭りで出店の手伝い、利用者の介助	平成26年8月9日(土)17:00～		平成26年 7月31日(木)	
41	夏祭りボランティア	津市	シルバークア豊楽園	夏祭りで模擬店軽食の準備、利用者への配膳	平成26年8月2日(土) 17:00～20:00	7/11説明会あり	平成26年 7月17日(木)	
42	ボランティアまつり2014	伊勢市	伊勢市福祉健康センター	視覚障がい者の方のガイドヘルプ、 調理ボランティア、会場設営など	平成26年7月27日(日) 9:00～15:00		平成26年 7月17日(木)	
43	ゆかたで千人参り 「シャッター押し隊」	伊勢市	伊勢神宮外宮及びその周辺	参観者のカメラを使って参加者の撮影。 及び巡回・誘導	平成26年8月1日(金) 15:30～21:00	7/27MTあり	平成26年 7月24日(木)	

44	外宮奉納市ボランティア	伊勢市	伊勢神宮外宮及びその周辺外宮前バス停広場	外宮奉納市の手伝い	平成26年10月14日(火)、11月9日(日) 10:00~15:00	金券(1000円)贈呈	平成26年8月28日(木)
45	はなのその夏祭り	玉城町	はなのその駐車場	出店の手伝い、付き添いなど簡単な介助	平成26年8月31日(日) 18:00~20:00		平成26年7月24日(木)
46	外宮奉納ボランティア	伊勢市	伊勢神宮外宮	奉納にこられた方の案内・受付及びその他の業務	平成26年10月13日(祝・月)、11月8日(土)6:00~10:00	時給(¥750)あり、事前打ち合わせあり	平成26年8月28日(木)
47	インドカレー						
48	障がい者スポーツ大会陸上競技ボランティア	伊勢市	三重県総合競技場	陸上競技場に参加される選手の支援、競技援助	平成26年10月4日(土) 10:00~15:30	昼食付き、傷害保険に加入(費用は事務局が負担)	平成26年8月21日(木)
49	東海北陸バリアフリー市民交流会inみえ	伊勢市	伊勢神宮外宮周辺	車イス利用者の介助(サポート)	平成26年9月21日(日) 9時~15時		平成26年9月9日(火)
50	御園ボランティアまつり	伊勢市	御園子どもプラザ	着ぐるみに入る	平成26年10月19日(日) 9:30~12:30		平成26年9月30日(火)
51	杜まつり	伊勢市	宮の里ミタスメモリアルルーム	利用者の直接介助、模擬店等のお手伝い	平成26年10月19日(日) 10:00~15:30	昼食あり	平成26年9月16日(火)
52	車イスde参拝プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮内宮	伊勢神宮内宮参道での車イス介助、正宮前階段での車イス持ち上げ、参加者との会話など	平成26年11月3日(月)	10月26日(日)に事前レクチャー有り	平成26年10月7日(火)
53	"I Love ISE"推進運動	伊勢市	晴天時:今社公園前~曾祿交差点付近、雨天時:高柳商店街前	事業会場内の警備及び誘導、設置など	平成26年10月11.12日(土.日) 8:30~19:00		平成26年10月7日(火)
54	五十鈴の森クラフトフェア	伊勢市	五十鈴公園	イベントの手伝い	平成26年11月7日(金)~9日(日) 7:00~17:00	10月14日(火) 昼休みに説明会あり	平成26年10月23日(木)
55	聖母の家まつり	四日市市	聖母の家	祭りの模擬店のお手伝い	平成26年10月19日(日)	金券500円付	平成26年9月30日(火)
56	ふれあい祭り	津市	三重県いなば園ふれあい広場	ふれあい祭り当日のお手伝いのボランティア	平成26年10月26日(日) 10:00~14:00	9:00~9:30の間にいなば園玄関受付に集合	平成26年10月9日(木)
57	三重県民大緑会スタッフ	伊勢市	三重県営サンアリーナ	当日の運営スタッフ	平成26年11月22日(土) 9:00~16:30	昼食あり	平成26年10月30日(木)
58	第45回鳥羽市小学校陸上記録会ボランティア	鳥羽市	鳥羽市立鳥羽小学校	審判の補助など	平成26年10月21日(火) 8:15~15:10		平成26年10月7日(火)
59	河崎商人市ボランティアスタッフ	河崎市	伊勢河崎商人館	スタンブラリーの運営、イベントの補助など	平成26年10月26日(日) 8:30~16:00		平成26年10月10日(金)
60	風の丘イベントスタッフ	多気町相可	風の丘	風子祭りのイベントのお手伝い	平成26年11月15日(土) 9:10~15:30	昼食と交通費に1000円支給される。	平成26年10月23日(木)
61	松阪市手をつなぐ親の会	松阪市	ハートフルみくもスポーツ文化センター	運動会お手伝い	平成26年10月11日(土)	8:30に現地集合。昼食あり。	平成26年10月7日(火)
62	ひだまりフェスタ	鳥羽市	保健福祉センターひだまり	当日来館者の誘導案内、福祉バザーの運営協力、ゴミの分別処理、着ぐるみを着て会の盛り上げ、募金活動の協力等	平成26年10月19日(日) 9:00~15:30	ひだまり行きの臨時バス有り。	平成26年10月10日(金)
63	風子祭りのお手伝い	多気町	風の丘	利用者さんとのふれあい、ゲーム・出店の手伝い及び設置、片付けなど。	平成26年10月30日(木)	昼食、交通費有り。	平成26年10月30日(木)
64	献血	伊勢市	イオンラパーク1階はーと広場	献血の協力、着ぐるみで活動の呼びかけ	平成26年11月13日(木) 10:00~16:00	図書券、感謝状支給	平成26年11月11日(火)
65	オレンジまつり 運営ボランティア	松阪市	三重県立みえこどもの城前庭	オレンジみこしを担ぐ子どもたちの見守り、協力団体のお手伝い	平成26年11月16日(日) 12:00~16:00	参加費1000円支給	平成26年11月4日(火)
66	沼木まつり	伊勢市	福祉健康センター	着ぐるみに入る。赤い羽根募金のお手伝い	平成26年度11月24日(月) 8:00~15:30	昼食、飲料支給あり	平成26年11月18日(火)
67	しま国際交流フェスティバル	志摩市	志摩市商工会館	カンボジアの観光地展示紹介、過去に絵本を届けに行ったボランティアの展示紹介、カンボジアTシャツのチャリティー販売などのブース設置・飾りつけ・接客	平成26年11月23日(日) 10:00~16:00	食事代、交通費支給	平成26年11月20日(木)
68	神社港老人クラブ	伊勢市	神社港公民館	お楽しみ会の企画、実行	平成27年2月16日(月)		平成27年2月3日(火)
69	県警ボランティア	津市	各地	支援活動等	平成26年4月1日(火)~平成27年3月31日(火)	面接あり	平成27年1月23日(金)
70	第5回いせ市民活動フェスティバル	伊勢市	いせ市民活動センター	出展されるブースのお手伝い	平成27年3月21日(土)		平成27年2月10日(火)
71	クリスマスコンサートボラ	松阪市	ワークセンター松阪	クリスマスコンサートの会場準備・片付け	平成26年12月25日(木) 11:30~16:00	軽食あり。	平成26年12月19日(金)
72	外宮奉納市ボランティア	伊勢市	伊勢神宮外宮北御門広場	会場設置準備、チラシ配布作業、抽選会補助	平成27年2月21日、22日(土、日)	事前打ち合わせあり	平成27年1月29日(木)
73	センターフェスタ	鈴鹿市	鈴鹿青少年センター	イベントの会場運営	平成27年2月22日(日)		平成27年2月2日(月)
74	車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢市	外宮参道	車いすの補助等	平成27年3月21日(土)		平成27年3月3日(火)
75	志摩ロードパーティー	志摩市	志摩スペイン村	参加者のサポート	平成27年4月19日(日)	説明会あり	平成27年3月31日(火)
76	松阪こどもまつり	松阪市	中部台運動公園	運営スタッフ業務	平成27年4月26日(日)	昼食あり	平成27年4月9日(木)
77	伊勢神宮外宮奉納市	伊勢市	伊勢神宮外宮	会場設置準備等	平成27年4月11、12日(土、日)	食事券配布	平成27年4月2日(木)

平成 26 年度 ルームスタッフ

	所属	学年	名前
1	現代日本社会学科	3 年	久保圭
2			西村友希
3			眞田有伊
4			小山菜那
5			宮本紗代
6	教育学科		松葉拳介
7			川村亮仁
8			境井太郎
9			山路騎平
1 0			松谷広志
1 1			北村和暉
1 2			奥野紘規
1 3			大谷奈都希
1 4			黒田ゆかり
1 5			宮崎遥香
1 6	現代日本社会学科	2 年	出口真太郎
1 7			高奥命
1 8			大和田野澄香
1 9	教育学科		内藤悠
2 0			柘植美早
2 1			坂元美咲
2 2	コミュニケーション学科	1 年	河口比加理